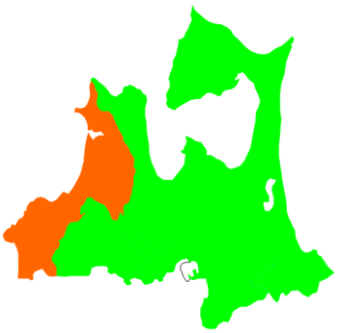
令和７年度



西北地域
普及指導活動のまとめ













令和８年３月
西北農林水産事務所

執筆項目

Ⅰ　普及指導活動の体制

令和７年度 西北農林水産事務所 農業普及振興室・分室活動体制　1

Ⅱ　普及指導活動の主な成果

１　広域重点普及指導計画

（１）良食味米として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産　2

（２）稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進　3

（３）交信撹乱剤「コンフューザーＲ」を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出基盤強化　4

（４）持続可能で活力ある農山漁村づくりを目指した「あおもり型農村ＲＭＯ」の育成　5

２　地域重点普及指導計画

中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大　6

３　一般普及指導計画

（１）気象変動に対応した基本技術の励行による大豆の品質向上と安定生産　7

（２）基本技術の励行によるトマト及びミニトマトの産地の維持・強化　7

（３）ながいも・にんにくの高品質安定生産による産地の維持・強化　8

（４）メロン・すいかの高品質安定生産による産地の維持・拡大　8

（５）花きの高品質安定生産の推進と産地の強化　9

（６）ぶどうの高品質生産による産地の強化　9

（７）西北地域の鳥獣被害防止対策の推進　10

（８）若手農業者の育成確保　10

（９）担い手の経営管理能力向上　11

(10) 女性農業者の人材育成と活躍促進　11

Ⅲ　情報の発行状況

１　みどりの通信　12

２　ホームページ　13

Ⅳ　集団・組織の活動状況

１　農業経営士・青年農業士（西北五、つがる市、鰺ヶ沢）　14

２　西北地域ＶｉＣ・ウーマンの会　17

３　生活改善・生活研究グループ　18

４　農村青少年クラブ　20

５　若手女性組織（ＫＯＳ(きづくりオリジナルスター)）　22

６　西北津軽産直ネットワーク協議会　23

７　津軽米づくりネットワーク　25

Ⅴ　気象経過と農作物の生育状況

１　気象経過　29

２　水　稲　31

３　大　豆　33

４　小　麦　35

５　野菜
（うち、ながいも、にんにく、ブロッコリー、ねぎ、メロン、すいか：分室）　37

６　りんご　41

７　ぶどう（スチューベン）　43

８　花　き　44

Ⅵ　表彰・認定

１　表彰事業受賞者

（１）あおもりの旨い米グランプリ　45

（２）青森県農業経営研究協会賞　46

（３）農山漁村女性活躍表彰　47

２　新規認定者

（１）農業経営士・青年農業士認定　48

（２）ＶｉＣ・ウーマン認定　50

Ⅶ　その他の活動

令和７年度青森県所得向上事業プログラム実施支援事業　51

Ⅷ　参考資料

１　西北の農業の概要　52

２　作目別の生産の状況

（１）水稲　55

（２）畑作物　55

（３）野菜　56

（４）果樹　57

（５）花き　58

（６）水稲・大豆・小麦の採種　59

３　西北地域農林業主要指標　60

Ⅰ　普及指導活動の体制（令和７年度）

農業普及振興室長　　渋谷　恵美子 農業普及振興室分室長　對馬　幹俊 農業普及振興室（室長含む）　　３班　２６名 農業普及振興室分室（分室長含む）　２班　　９名 合　　計　　５班　３５名			
農業普及振興室	企画班 ９名	総括主幹(副室長)一戸　辰巳	（企画班の総括、普及費の予算管理等）
		総括主幹　金　　知康	（果樹振興、果樹放任園発生防止等）
		主　　幹　下山ひろみ	（農地利用効率化等支援交付金、農業構造改善事業等）
		主幹専門員　齋藤　　力	（土づくり運動､みどりの食料システム戦略等）
		主　　査　齋藤　聡子	（環境保全型農業直接支援､ＧＡＰ､鳥獣被害防止等）
		主　　査　岡山　　巧	（野菜・花き振興、所得向上プログラム事業等）
		主　　事　古坂　大地	（畑作物振興、特別栽培、災害対応等）
		主　　事　永野　千陽	（農福連携、食育推進、食品表示等）
		主　　事　村山　大空	（水稲振興、経営所得安定対策等）
	地域第１班 （五所川原市・中泊町） ９名	総括主幹(副室長)小笠原宜弘	（地域第１班の総括、農林水産力強化パッケージ畜産部会等）
		総括主幹　久保田　稔	（花き、五所川原市及び農協等との連携等）
		主　　幹　白石　一志	（認定農業者制度、農業制度資金等）
		主　　幹　白取　　愛	（農山漁村女性の活躍応援、ViC ウーマンの支援等）
		主　　幹　阿部　眞也	（野菜、稼げる水田農業定着加速化事業等）
		主　　幹　小野　泰一	（水稲、「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導等）
		技　　師　古川　祥太	（あおもり型農村ＲＭＯ、集落営農、４HC の活動支援等）
		技　　師　久保田有紀	（農泊、農産加工等）
		技　　師　遠藤　詩歩	（稲わらの有効活用、農産物生育状況調査等）
	地域第２班 （板柳町・鶴田町） ７名	総括主幹(副室長)中村　　諭	（地域第２班の総括､農作物生育状況調査等）
		主　　幹　清藤　香理	（産直ネットワーク、家族経営協定等）
		主　　幹　白川真美子	（果樹、りんごのモモシンクイガ特別防除対策事業等）
		主　　幹　吉川　育子	（新規就農者育成総合対策、青年農業者の研修等）
		主　　査　福沢　琢磨	（畑作、採種ほ生産物検査等）
		技　　師　山田紗矢香	（果樹の指導、病害虫防除指針等）
		技　　師　福田　詩乃	（野菜・花き、病害虫防除、植防・施肥合等）
同分室	地域第１班 （つがる市） ４名	総括主幹　若宮　通子	（分室地域第１班の総括、つがる市農業士会等）
		主　　幹　三上　竜平	（土地利用型作物、水稲採種ほ等）
		主幹専門員　蛸島　　基	（野菜、経営、新規就農等）
		技　　師　工藤　優羅	（農作業安全、農薬適正使用等）
	地域第２班 （鰺ヶ沢町・深浦町） ４名	主　　幹　鈴木　　晃	（分室地域第２班の総括、鰺ヶ沢地区指導農業士会等）
		総括主幹　野呂　賢一	（土地利用型作物、大豆・小麦の採種ほ、情報セキュリティ等）
		主　　幹　佐藤　祐子	（野菜・花き、普及指導員の調査研究等）
		技　　師　菊池　晴惟	（植防・施肥合、農業気象等）

Ⅱ　普及指導活動の主な成果

１　広域重点普及指導計画

（１）良食味米として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産

【対象名】「はれわたり」作付者(620 名)、管内「青天の霹靂」作付者
（304 名うち、新規作付者（２名）及び前年産出荷基準未達者（14 名））

西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核に、「はれわたり」の良食味・安定生産及び「青天の霹靂」のブランド維持のため、生産指導に取り組んだ。

【背景・課題】

「はれわたり」は、栽培のポイントが浸透しつつあるが、良食味・高品質米安定生産のために、関係機関と連携して栽培マニュアルに沿った栽培管理を広く指導する必要がある。

また、県産ブランド米「青天の霹靂」は、ブランド維持のために新規作付者や前年出荷基準未達者に対して、関係機関と連携しながら継続して重点的に指導を行う必要がある。


育苗講習会（4/25）

【普及指導活動の内容】

ア　西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（ＰＴ）において、指導拠点ほの設置、夏季現地巡回の開催により「衛星ナビ」の活用等について関係機関と意識統一を図った。

イ　「はれわたり」生産者に対して、高温時の水管理について重点的に指導したほか、「はれナビ」の周知と適期収穫の徹底を呼びかけた。

ウ　「青天の霹靂」新規作付者及び前年産の出荷基準未達成者等に対し、集荷団体の指導員と連携しながら個別指導を行った。


ＰＴ夏季現地巡回（8/27）

【成果】

「はれわたり」の管内ＪＡ一等米比率は 98%以上で目標を達成した。

「青天の霹靂」新規作付者及び前年基準未達者の出荷基準達成者の合格者は 13 名であった。


適期刈取講習会（8/29）

（２）稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進

【対象名】津軽米づくりネットワーク（49 名）、スマート農機導入経営体（368 経営体）
五所川原広域水田フル活用推進協議会（27 名）

収量・品質の向上や生産効率を追求するスマート農業技術の普及を図るため、実証活動や情報提供をするとともに、技術を使いこなす多様な人財の育成に取り組んだ。

【背景・課題】

水田農業経営の大規模化が進行する中で、労働力不足等の課題に対応できるよう、令和元年からスマート農業技術の普及を推進してきた結果、スマート農機を導入する経営体が大幅に増加した。しかし、その機能を十分に活かし切れていないため、効果的な活用によるメリットの追求と活用できる人財の育成が求められている。



生育マップに基づく可変施肥（7/29）

【普及指導活動の内容】

ア　データ駆動型農業技術を実証するため、「ザルビオフィールドマネジャー」の分析結果に基づき、可変追肥の実演会を開催した。

イ　労働力不足に対応し、多様なオペレーターを養成するため、スマート農機の初心者等を対象に、自動操舵システムに関する基礎知識や基本操作に関する研修会を開催した。

ウ　ＧＮＳＳガイダンス自動操舵システムの導入メリットの紹介やシミュレーターによる本システムが体験できる研修会を開催した。



オペレーター養成研修の様子（6/28）

【成果】

ア　「ザルビオフィールドマネジャー」を用いた可変追肥の実演会では、可変施肥マップのドローンへの取り込み、ドローンのセッティング等、詳細な操作方法について生産者の理解が深まった。また、生育マップを活用した可変追肥により、収量が向上し、ほ場内の収量のばらつきが小さくなった。

イ　労働力不足に対応し、多様なオペレーターを養成するため、スマート農機の初心者、後継者、女性農業者、新規就農者など機械作業を普段していない人を対象にオペレーター養成研修を実施し、技術の習得を図った。

ウ　ＧＮＳＳガイダンス自動操舵システムの導入メリットである疲労軽減、作業効率や精度向上などによる生産性が向上することが理解された。



自動操舵システム研修会（1/13）



シミュレーター体験（1/13）

（３）交信撹乱剤「コンフューザーＲ」を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出基盤強化

【対象名】管内のりんご共同防除組織及び管内りんご生産者

管内のりんご生産者（りんご共同防除組織）を対象に、交信撹乱剤設置実演会、交信撹乱剤の特性や正しい設置方法を周知する講習会等を実施することで、設置面積の拡大及びモモシンクイガ等の適正防除の普及拡大に取り組んだ。

【背景・課題】

台湾に輸出されたりんご果実からモモシンクイガが見つかった場合は、即、輸出停止となることから、完璧な防除が求められている。一方、近年は温暖化の影響により慣行防除を行っている園地でもモモシンクイガ被害果の増加が確認されている。このような状況から、モモシンクイガ等の主要害虫を適正に防除するため、令和６年青森県りんご病害虫防除暦から交信撹乱剤が基準薬剤となり、その効果や正しい設置方法等を周知し、普及拡大する必要がある。



交信撹乱剤設置実演会(5/13)

【普及指導活動の内容】

ア　各共防連対象の病害虫防除講習会（延べ 44 回、1,145 名）において、モモシンクイガ等重要害虫の発生状況や交信撹乱剤設置を基準とした適正防除について周知した。

イ　設置時期である５月に交信撹乱剤の設置実演会（延べ４回、56 名）を開催し、交信撹乱剤の効果やその効果を最大限に発揮するための１樹当たりの設置本数、（ディスペンサーの）取り付け方法など正しい設置方法について周知した。

ウ　園地巡回や講習会等で、設置方法や設置時期などについて指導を行った。（延べ 39 回、41 名）

エ　設置方法の展示ほとして、正しく交信撹乱剤を設置した園地を管内５市町に１～２園地ずつ設置（４～９月）し設置方法の展示を行うとともに、交信撹乱効果及び被害発生状況を確認するための調査研究に取り組んだ。

オ　調査研究課題として実証した交信撹乱剤の効果を取りまとめるとともに、交信撹乱剤設置の継続・拡大による次年産りんご適正防除のため、各共防連の防除暦説明会等（１月末時点、延べ２回、217 名）で周知した。



モモシンクイガ等適正防除講習会(5/15)



つがる市共防連
りんご防除暦検討会議（1/8）

【成果】

コンフューザーＲの設置による防除効果について周知され、令和７年産りんごの西北管内でのコンフューザーＲの設置面積は 1,269ha から 1,542ha に増加した。

（４）持続可能で活力のある農山漁村づくりを目指した「あおもり型農村ＲＭＯ」の育成

【対象名】あおもり型農村ＲＭＯ（Region Management Organization:地域運営組織）
を目指す西北管内集落及び地域経営体

各市町の担い手育成総合支援協議会等と連携して「あおもり型農村ＲＭＯ」の育成に取り組むとともに、五所川原市三好地区の地域資源の発掘・活用、地域コミュニティの再生強化に向け「三好をあじあう会」の支援に取り組んだ。

【背景・課題】

農村地域は人口減少と高齢化が進行しており、コミュニティを維持するため、地域経営体や地域の住民が連携し、人口減少に伴う地域課題解決に向けて活動する地域運営組織等の育成が必要である。令和３年度から育成してきた地域運営組織「三好をあじあう会（五所川原市三好地区)」は、活動を主体的に進められるようになってきており、今後の活動の継続、発展に向けて支援を続け、さらに他地区への面的広がりを促す必要がある。



三好をあじあう会
ザリガニ釣り大会(7/21)



三好をあじあう会
自然体験教室(8/23～24)



七和まちづくりネットワーク「鰐 come 祭」出店(10/18～19)

【普及指導活動の内容】

ア　五所川原市及び板柳町の担い手育成総合支援協議会等と連携し、地域経営体の育成、共助・共存に向けた集落の意識醸成や、地域資源の発掘・活用、担い手育成等に対する取組を支援した。

イ　地域運営組織「一般社団法名七和まちづくりネットワーク」が、「ジャズコンサートイベント（7/27)」、「収穫感謝祭（11/23)」を開催したほか、「鰐 come 祭り・秋（10/18～19)」に三好をあじあう会と共同で出店し、自然乾燥米のＰＲ活動を行った。また、自然乾燥米の販売をブラッシュアップするため、検討委員会を２回（8/29・1/22)開催し、パッケージのブラッシュアップを行った。

ウ　地域運営組織「三好をあじあう会」が、「三好ザリガニ釣り大会（7/21・9/7、２回)」、「自然体験教室（8/23～24)」、「交流拠点整備講習会（12/13～14・20～21、２回)」、「民泊講習会（11/16・1/25、２回)」を開催し、イベントを通じてボランティア３名が活動に参加してくれるようになった。

これらの地域経営体に対して、運営にかかる技術的支援、経営基盤強化に向けた指導を行った。

【成果】

普及指導活動により、モデル集落の育成（三好をあじあう会)、地域資源活用（五所川原地域担い手協)、新規就農者の育成（板柳町担い手協）等が進んだ。一般社団法名七和まちづくりネットワークは自然乾燥米の販売におけるブラッシュアップを進め、三好をあじあう会は、イベントを通した外部名材の交流を実現した。

２　地域重点普及指導計画

中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大

【対象名】中泊町の中小規模稲作経営体(101 戸)、新規就農者

基盤整備事業でほ場整備が行われている中泊町の稲作経営の農業者を対象に、野菜栽培技術を実践しながら学ぶトレーニングファームを設置し、ここを拠点に現地情報交換会や省力化技術・鳥獣害対策の実演会を行い、複合経営の普及拡大に取り組んだ。

【背景・課題】

中泊町では令和５年度から中山間地域の３地区(薄市・今泉・宮野沢)で農地中間管理機構関連農地整備事業の工事が始まり、工事の進捗に合わせ、米価下落時のリスク管理や収益力向上の観点から野菜導入の動きがでてきた。このため、野菜の栽培技術を学ぶ仕組みを整えるとともに省力化や鳥獣害対策等の課題を検討し、普及拡大を支援していく必要がある。



トレーニングファームとうもろこし播種作業(5/30)

【普及指導活動の内容】

ア　「トレーニングファーム」（中泊町今泉地区）を設置し、とうもろこしを栽培した。初めての野菜栽培であるため、現地講習会や個別指導により技術習得を図るとともに、良品多収のための土づくりや排水対策の重要性への理解を深めた。

イ　「トレーニングファーム」を拠点に３地区の農業者や関係機関で現地情報交換会(6/5、8/8、延べ 75 名）を開催し、生育状況や課題等を共有した。

併せて、とうもろこしの播種作業の省力化に向け「目皿式播種機」による播種実演、鳥獣被害の現状や対策の解説、電気柵の設置実演を行った。

ウ　情報交換会(12/18、23 名）を開催し、薄市・今泉地区における野菜栽培の取組結果や課題、新品目の提案、野菜導入による収益力向上のためのロードマップや試算シートを関係者で共有し、今後の作付計画や目指す方向性を検討した。



目皿式播種機によるとうもろこしの播種実演(6/5)



鳥獣害対策説明(8/8)

【成果】

中泊町の野菜導入経営体数が前年度の 16 戸から 20 戸に増加した。

野菜栽培における土づくりや排水対策の重要性が理解され、次年度に向けて、堆肥の施用やスタブルカルチの施工を実施する動きがみられた。

今泉地区では、とうもろこしに加え、ピーマンにもチャレンジする意向が示された。



情報交換会(12/18)

３　一般普及指導計画

（１）気候変動に対応した基本技術の励行による大豆の品質向上と安定生産

水田転換ほ場における大豆栽培は、気象やほ場条件の影響を大きく受け、生育・収量について年次の変動やほ場間、ほ場内でのバラツキが生じやすく、生産が不安定となっている。そこで、収量・品質の高位平準化を図るため、リモートセンシング技術を活用した生育量の把握とデータに基づく可変追肥を実施する実証ほを設置し、その結果を指導に活用した。

また、雑草対策や排水対策、病害虫防除等の栽培管理について、栽培講習会や現地巡回等で指導し、収量・品質の向上を図った。



排水性を考慮したは種床造成(5/30)

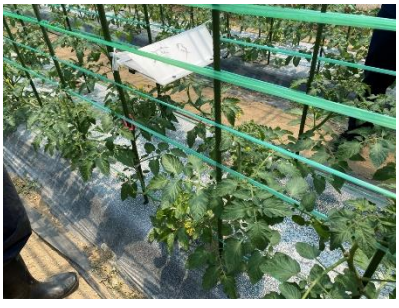


可変追肥の実証(7/29)

（２）基本技術の励行によるトマト及びミニトマトの産地の維持強化

管内のトマトは「りんか 409」、ミニトマトは「サンチェリーピュア」が主力品種であるが、品種や気象変動に対応した栽培管理、病害虫防除への理解を深めるため、農協、種苗メーカーと連携した現地講習会や巡回指導等により、収量・品質の維持向上を図った。

また、トマトでは連続摘花房の効果、ミニトマトでは斑点病耐性品種、トマトキバガの発生消長調査や粒剤の効果等気象変動に対応した現地試験や調査を実施し、結果を指導に活用した。



ﾄﾏﾄｷﾊﾞｶﾞﾄﾗｯﾌﾟ調査(6/3)



ﾄﾏﾄ現地講習会(7/14)



ﾐﾆﾄﾏﾄ品種比較試験(8/25)

（３）ながいも・にんにくの高品質安定生産による産地の維持強化

【ながいも】

単収・品質向上を図るため、栽培講習会（４回、延べ 26 名）や現地巡回（延べ 12 名）を通じて、肥培管理や病害虫防除について指導した結果、ＡＢ品率が向上した。

また、つがる市車力に新品種「夢雪」の現地実証ほを設置し、栽培講習会で「夢雪」の特性等を紹介した。

【にんにく】

品質向上を図るため、現地講習会（６回、延べ 79 名）や現地巡回（延べ 16 名）を通じて、りん片分化期の判定と追肥、病害虫防除、適期収穫、優良種苗の適正管理、適正乾燥について指導した。また、新品種「青森福雪」栽培技術実証ほをつがる市木造に設置し、越冬後の生育や品種特性を把握した。

【新品種について】

ながいも・にんにくの新品種に対する生産者の関心は高く、講習会などの場を活用し、品種特性や展示ほの調査結果について紹介した。



ながいも夢雪展示ほ



ながいも収穫物調査



にんにく青森福雪

（４）メロン・すいかの高品質安定生産による産地の維持・拡大

西北地域は県内で最大のメロン、すいかの産地であり歴史も長いが、近年、連作の影響と考えられる株のしおれや枯れ症状の相談が多くなっている。株を引き抜くと根が障害を受けていることが多いため、診断のため事務所に根を持ち込み、ビニール袋に 10 日程入れて病原菌を増殖させ、顕微鏡で検鏡した。

その結果、これまでの炭腐病やホモプシス根腐病と異なり、根の表面に付く黒色小斑点が大きい「黒点根腐病」の発生を新たに確認した。これらの病気は、特効薬が無いことから、ほ場巡回や研修会で対策として輪作や緑肥作物を導入するよう指導した。



メロンの黒点根腐病



すいかの栽培講習会

（５）花きの高品質安定生産の推進と産地の強化

輪ギクは、現地検討会を３回実施したほか、生育観測ほを２か所設置し、随時生育状況の把握に努め、適正な温度や肥培管理を指導した。また、オオタバコガフェロモントラップを６月中旬から中泉地区と川山地区の２か所に設置し、調査結果をもとに適期防除を呼びかけた。

トルコギキョウは、生産者の栽培ほ場等での講習会及びＪＡの出荷目揃会において、病害虫防除や高温対策などを指導した。

輪ギク、トルコギキョウ共に、記録的な高温のため品質の低下がみられ、出荷量の減少となった。

花き生産者の所得向上に向け、低コストで省力的に栽培できるシンテッポウユリの栽培を推進した。



シンテッポウユリの定植



現地検討会

（６）ぶどうの高品質生産による産地の強化

【スチューベン】

講習会（４回、延べ 98 名）等により近年、発生が多い晩腐病等の適正防除及び適正管理を指導した。また、近年発生が多い収穫間近の果粒肥大による裂果・脱粒を防ぐため、「サニールージュ」で普及している簡易的な摘粒方法を指導したところ、一部生産者が取り組み始めた。

【シャインマスカット等】

講習会（７回、延べ 113 名）等により花穂整形、無核処理のほか、摘粒等の管理作業の適期実施や開花期の灰色かび病対策等適正防除を指導した。また、巡回指導（13 回、延べ 15 名）で適期収穫を呼びかけた。



シャインマスカット適正防除講習会(5/14)



スチューベン適正管理講習会(7/3)

（７）西北地域の鳥獣被害防止対策の推進

西北地域鳥獣被害防止担当者会議（12/11）を開催し、各市町の取組状況に関する情報交換、被害対策を進める上での具体的な課題やそれに対する知見等、積極的な意見交換が行われた。

また、対策の進め方や捕獲に関する使用機器やその設置方法など、対象獣種に合わせた具体的な情報が得られるよう、当室が調整することで市町間の連携を促し、捕獲効率の向上、取組体制の強化が図られた。



担当者会議の様子（12/11）



深浦町のサル大型檻（12/17）

（８）若手農業者の育成確保

若手農業者の育成に向け、就農希望者に対する就農相談や青年等就農計画の作成を支援したほか、市町担当と連携したフォローアップでは、農業次世代人材投資資金や経営開始資金の交付対象者のほ場巡回と面談により対象者 52 名（１月末）の状況を確認し、必要に応じて助言を行った。

今年度は延べ 39 名の就農希望者及び新規就農者に対し、相談対応や計画作成支援を行い、新たに 23 名（うち夫婦１組）が新たに国の政策支援を受けることができた。

また、今年度のニューファーマーズカレッジには延べ 48 名が参加し、視察研修や農産加工の実習、土づくりや病害虫防除の基礎、農作業安全、農業簿記等の講義により、農業経営の知識習得と参加者間の交流を図った。



先輩農業者のほ場視察
（7/11）



農業簿記の座学研修
（12/18～19）

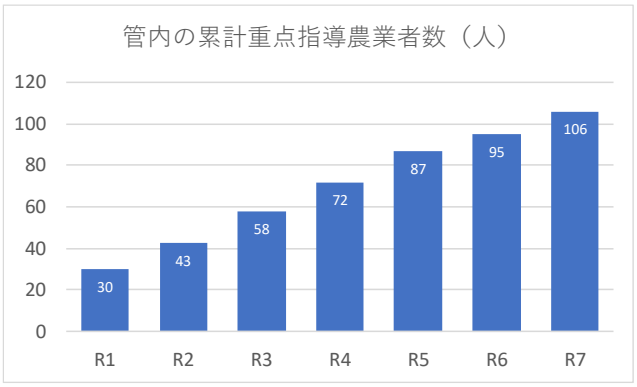


農産加工の実習
（1/15）

（９）担い手の経営管理能力向上

新規に選定した重点指導農業者は 11 経営体で、管内の累計重点指導農業者数は 106 経営体となった。

農業経営相談所の専門家による支援を受けた農業者は、２月末までに 19 経営体（新規 12、継続 7）、回数は延べ 20 回となった。内容は、法人化、雇用・労務、経営改善・診断、事業計画の達成等であった。





専門家による指導（9/3）

（10）女性農業者の人材育成と活躍促進

農山漁村女性の活躍促進や地域の活性化を目的に、管内市町ごとに関係課や農業委員会と担当者会議を実施したほか、多様な人材が活躍できる環境作りをテーマとした農山漁村女性セミナーや、特色ある農業経営や農村ＲＭＯの取組事例等の情報交換を行うＶｉＣ・ウーマン交流会を開催して、女性リーダーの資質向上と社会参画を推進した。

また、農作業安全に向けた体験や農業女子による組織活動の事例について学ぶ西北農女子交流会の開催を通して、若手女性農業者の交流と次世代を担う人材の育成を図った。



農山漁村女性セミナー（1/29）



西北農女子交流会：ＶＲ体験（12/3）

Ⅲ　情報の発行状況

１　みどりの通信

＜第１号＞　令和７年５月発行

○令和７年度のスタートに当たって
○農業普及振興室の重点的な取組、職員紹介
○表彰、新農業経営士、青年農業士、ＶｉＣ・ウーマン、土づくりの匠
○令和７年度ニューファーマーズカレッジ受講生募集
○みどり認定について
○注意喚起
・りんご生産者の皆さん、「コンフューザーＲ」を設置しましょう

第１号


令和７年度第1号（令和７年５月８日発行）

みどりの通信

西北農林水産事務所
農業普及振興室
五所川原市栄町10　電話0173-34-2111(代)
分　室
つがる市木造桜木9-1　電話0173-42-2222

令和７年度のスタートに当たって　　農業普及振興室長　渋谷　恵美子

４月より室長となりました渋谷です。西北地域は分室以来６年ぶりです。異動で着任した職員共々、よろしくお願いします。県の組織改正で県民局が廃止され、この４月から西北農林水産事務所に変更となりましたが、農業普及振興室の体制は変更ありませんので、引き続き、地域の農業者との対話を大切に普及指導活動を展開していきます。
この冬の豪雪で被害に遭われた皆様には、復旧に向けて御苦労されていることと思いますが、当室でも皆様の営農継続のため支援して参ります。
今年度も各作物の生産振興、多様な担い手・若手農業者の育成確保、農山漁村女性への活動支援などに向けて、下記に記載した重点事項に取り組んでいきますので、関係者の皆様には、引き続き御協力くださるようお願いします。

農業普及振興室の重点的な取組

良食味米として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産
県産米の新たな需要獲得に向け、関係機関と連携して「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産を支援します。
生産指導プロジェクトチーム現地巡回 ▶

稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進
技術実証ほの設置、スマート農機実演会、スキル向上研修会により、スマート農業技術の普及・人財育成に取り組みます。
自動操舵による大豆は種作業 ▶

交信撹乱剤「コンフューザーR」を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出強化拡大
交信撹乱剤の効果や設置方法を普及し、設置面積の拡大を図ります。
交信撹乱剤実演会 ▶

持続可能で活力ある農山漁村づくりを目指した「あおもり型農村RMO」の育成
地域課題解決に向けて住民が主体的に活動できる体制づくりを支援します。
あおもり鍋自慢（南部町）へ出店 ▶

中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大
水田を活用した野菜の導入を進め、複合経営の普及拡大を図ります。
「トレーニングファーム」での電気柵設置実演会 ▶

＜第２号＞　令和８年３月発行

○重点指導計画の成果
・良食味米生産地として消費者に評価される「はれわたり」及び「青天の霹靂」の高品質・安定生産
・稼げる「西北型水田農業」の定着に向けたスマート農業の活用推進
・交信攪乱剤「コンフューザーＲ」を活用した適正防除の普及による高品質りんごの輸出基盤強化
・持続可能で活力ある農山漁村づくりを目指した「あおもり型農村ＲＭＯ」の育成
・中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及拡大
○令和７年産あおもりの旨い米グランプリ受賞者紹介
○最新のスマート農業技術―ドイツ連邦共和国視察
○りんご生産者の皆さん今年も「コンフューザーＲ」を設置しましょう。

２　ホームページ

農業普及振興室の取組内容として農作物生産情報（４月～11 月）や鳥獣害対策などを掲載するとともに、ニューファーマーズカレッジや農村女性担い手（KOS）の育成、農村青少年クラブ活動などについて情報を発信した。

＜アドレス＞

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/ni-nosui/seihokunourin-top.html

農業生産情報のページ



Ⅳ　集団・組織の活動状況

１　農業経営士・青年農業士

（１）各市町の農業経営士、青年農業士数

市町名	農業経営士	青年農業士	計	所属等
五所川原市	９名	５名	14 名	
板柳町	３名	１名	４名	北五地区
鶴田町	１名	６名	７名	農業経営士・青年農業士会
中泊町	１名	１名	２名	
つがる市	15 名	15 名	30 名	つがる市農業士会
鰺ヶ沢町	２名	８名	10 名	鰺ヶ沢地区指導農業士会
深浦町	０名	２名	２名	
計	31 名	38 名	69 名	

（２）北五地区農業経営士・青年農業士会

ア　会員構成

市町名	農業経営士	青年農業士	計	所属等
五所川原市	９名	５名	14 名	
板柳町	３名	１名	４名	会長　長峰　良孝
鶴田町	１名	６名	７名	（鶴田町：青年農業士）
中泊町	１名	１名	２名	
計	14 名	13 名	27 名	

イ　活動状況

（ア）県連主催行事

開催日	内容	参加名数
７月 31 日	県農林水産部長との意見交換会	１名
３月 25 日	令和７年度青森県農業経営士及び青年農業士並びにＶｉＣ・ウーマン認定証書授与式（青森市）	４名

（イ）地区主催行事等

開催日	内容	参加名数
	役員会（４/25、12/15、１/20）	延べ 12 名
６月 20 日	普及指導員との情報交換会	17 名
２月 25 日	農業活性化講演会及び通常総会（五所川原市）	18 名

（３）つがる市農業士会

ア　会員構成

市町名	名誉農業経営士	農業経営士	青年農業士	指導農業士	計	会長　佐々木　晶邦（つがる市：青年農業士）
つがる市	16 名	15 名	15 名	９名	55 名	

※名誉農業経営士：農業経営士の認定期間満了後も、つがる市農業士会の活動を続けている名
　指 導 農 業 士：青年農業士の認定期間満了後も、つがる市農業士会の活動を続けている名

イ　活動状況

（ア）県連主催行事

開催日	内容	参加名数
	役員会（4/11、6/6、12/12）	延べ６名
７月 31 日	県農林水産部長との意見交換会（青森市）	３名
８月 26～27 日	令和７年度東北・北海道地域農業士研究会　宮城大会	１名
２月 10 日	令和７年度青森県農業経営士及び青年農業士並びにＶｉＣ・ウーマン認定証書授与式、令和７年度農業経営士会・青年農業士会通常総会（青森市）	17 名

（イ）地区主催行事等

開催日	内容	参加名数
	役員会８回(4/24、5/27、6/20、7/19、8/28、10/23、11/19、2/19)	延べ 55 名
７月 10 日	会員ほ場巡回・情報交換会（つがる市）	20 名
11 月 26 日	つがる農業活性化フォーラム（つがる市）	68 名
１月 16 日	青年農業士全体会議（五所川原市）	９名
１月 29 日	新年情報交換会（五所川原市）	13 名
２月 25 日	農業活性化講演会及び通常総会（五所川原市）	25 名



会員ほ場巡回（7/10）



つがる農業活性化フォーラム（11/26）

（４）鰺ヶ沢地区指導農業士会

ア　会員構成

市町名	名誉農業経営士	農業経営士	青年農業士	青年農業士ＯＢ	計	所属等
鰺ヶ沢町	４名	２名	６名	14 名	26 名	会長　八木田　正輝
深浦町	０名	０名	２名	２名	４名	（鰺ヶ沢町：青年農業士）
計	４名	２名	８名	16 名	30 名	

イ　活動状況

（ア）県連主催行事

開催日	内容	参加名数
４月 11 日 ６月　６日 12 月 12 日	役員会	延べ３名
７月 31 日	県農林水産部長との意見交換会（青森市）	２名
２月 10 日	令和７年度青森県農業経営士及び青年農業士並びにＶｉＣ・ウーマン認定証書授与式、令和７年度農業経営士会・青年農業士会通常総会（青森市）	６名

（イ）地区主催行事等

開催日	内容	参加名数
６月 16 日	役員会及び情報交換会（鰺ヶ沢町）	６名
１月 26 日		６名
８月 27～28 日	視察研修（宮城県石巻市、東松島市）	５名
２月 25 日	農業活性化講演会及び通常総会（五所川原市）	10 名

２　西北地域ＶｉＣ・ウーマンの会

（１）役員（令和７～８年度）

役職	氏名	市町名	役職	氏名	市町名
会長	瀬戸　ひとみ	鶴田町	会計	野呂　奈穂子	鰺ヶ沢町
副会長	工藤　しのぶ	つがる市	書記	田中　恵津子	中泊町
〃	松山　和　江	鰺ヶ沢町	監事	阿部　啓　子	五所川原市
〃	小野　美恵子	中泊町	〃	松橋　久美子	つがる市

（２）会員構成

53 名（R7.4.1 現在、ＯＧを含む）

（五所川原支部 17 名、奥津軽支部 13 名、つがる市支部 13 名、鰺ヶ沢支部 10 名）

（３）活動状況

ア　会議

開催日	内容	参加名数
４月 17 日	第１回役員会（五所川原合同庁舎会議室）	10 名
12 月　４日	第２回役員会（五所川原合同庁舎会議室）	９名
１月 29 日	令和８年度総会（五所川原市民学習情報センター）	32 名

イ　研修

開催日	内容	参加名数
６月 30 日	西北地域ＶｉＣ・ウーマン交流会（コミニティーセンター三好、オーガニックレストランわらふぁーむ） ・ヨガ体験 講師　木村明日香氏 ・活動紹介～農村ＲＭＯの取組～ 紹介者　ＶｉＣ・ウーマン　小野慶子、阿部啓子 ・事例紹介 農家レストラン「わらふぁーむ」の取組 紹介者：木村明日香氏	19 名

＜交流会の様子＞



座って行うヨガを体験



わらふぁーむの取組を紹介

３　生活改善・生活研究グループ

（１）会員構成

組織名	グループ数	名数	会長
五所川原地区生活研究グループ連絡協議会	1	10 名	小野　列子
つがる市生活改善グループ連絡協議会	11	29 名	中村　嘉子
鰺ヶ沢地区生活改善グループ連絡協議会	12	27 名	佐藤　靖子
計	24	66 名	

（２）五所川原地区生活研究グループ連絡協議会

開催日	内容	参加名数
６月 18 日	先進事例研修会 ・カフェの取組（弘前市　Café LIEN） ・郷土料理を活用した商品の見学（弘前市　襷）	８名



先進事例研修（6/18）

（３）つがる市生活改善グループ連絡協議会活動状況

開催日	内容	参加名数
７月４日	先進事例研修 ・高密植栽培ほ場の見学 （黒石市　青森県産業産業技術センターりんご研究所） ・藍染め体験、しとぎ餅の実習 （平川市　ジンレリア工房）	９名
11 月 19 日	衣の研修会（つがる市　農業普及振興室分室） ・浴衣や着物をリメイクしたポンチョブラウスの製作 講師：野呂明子氏	10 名
12 月 10 日	食の研修会（つがる市　松の館） ・郷土料理と魚料理の実習 講師：中村嘉子氏、長谷川たか子氏 鰺ヶ沢生活改善グループ　山本ミサ子氏	14 名
２月６日	第 40 回くらしの工夫展（つがる市　松の館） ・作品展示、農産物加工品の販売、活動展示 （来場者　約 230 名）	18 名



先進事例研修（7/4）



食の研修会（12/10）

（４）鰺ヶ沢地区生活改善グループ連絡協議会活動状況

開催日	内容	参加名数
６月 24 日 ７月　８日 ７月 22 日	グループ員研修会（6/24、7/22 深浦町岩崎ふれあいと創造の館、7/8 鰺ヶ沢町舞戸公民館） ・技術講習　うどん教室 講師：深浦町総合戦略課　集落支援員　浪岡敏勇氏	25 名
９月　２日	「手づくりの味と技を楽しむ会」事前研修会 ・伝承料理のレシピ確認と運営打合せ	13 名
９月　９日	令和７年度「手づくりの味と技を楽しむ会」（鰺ヶ沢町総合保健福祉センター） ・消費者交流　一般消費者８名参加 講師：神馬ユキ氏、堀内きよ子氏、山本ミサ子氏 齋藤啓子氏	25 名
12 月 10 日	グループ員研修会（深浦町北金ヶ沢総合防災センター） ・技術伝達講習（白身魚のオリーブオイル焼き） 講師：山本ミサ子氏、堀内きよ子氏、齋藤啓子氏 ・体力作り講習 「青の煌めきダンスをおどろう」 講師：青森県女子体育連盟　県立鰺ヶ沢高等学校 教頭　中畑歩美氏	14 名



手作りの味と技を楽しむ会(9/17)



グループ員研修会（12/10）

４　農村青少年クラブ

（１）会員構成

組織名	構成市町	名数	会長
五所川原地区４Ｈクラブ	五所川原市、鶴田町、板柳町、中泊町	９名	加賀田　翔吾
つがる農村青少年クラブ	つがる市	20 名	三上　統史
計		29 名	

（２）五所川原地区４Ｈクラブ活動状況

開催日	内容	参加名数
４月 22 日	第 55 回東北農村青年会議青森大会第６回実行委員会	ｵﾝﾗｲﾝ（１名）
４月 23 日	第１回全体会議、顔合せ会	９名
５月 12 日	青森県４Ｈクラブ連絡協議会第１回地区連会長会議	ｵﾝﾗｲﾝ（２名）
５月 29 日	第 55 回東北農村青年会議青森大会第７回実行委員会	ｵﾝﾗｲﾝ（２名）
６月 12 日	第２回全体会議	４名
７月　９日	第 55 回東北農村青年会議青森大会第９回実行委員会	ｵﾝﾗｲﾝ（２名）
７月 16 日	第３回全体会議	８名
８月 19 日	第 55 回東北農村青年会議青森大会第 10 回実行委員会	ｵﾝﾗｲﾝ（１名）
８月 27 日～28 日	第 55 回東北農村青年会議青森大会	５名
10 月 24 日	第４回全体会議	６名
11 月 28 日	五所川原地区及びつがる地区合同農産物即売会	３名
12 月　４日	青森県４Ｈクラブ連絡協議会第２回地区連会長会議	ｵﾝﾗｲﾝ（１名）
12 月 17 日	三役会	２名
12 月 26 日	第 55 回東北農村青年会議青森大会第 11 回実行委員会	ｵﾝﾗｲﾝ（１名）
１月 21 日	第５回全体会議	６名
２月 12 日	令和７年度青森県青年農業者会議（東北町）	ｵﾝﾗｲﾝ（１名）
３月 17 日	総会	９名（予定）

（３）つがる農村青少年クラブ活動状況

開催日	内容	参加名数
５月 12 日	青森県４Ｈクラブ連絡協議会第１回地区連会長会議	１名
４月 30 日	分室職員とクラブ員の顔合わせ	12 名
８月 27 日 ～28 日	第 55 回東北農業青年会議青森大会(八戸市他)	９名
12 月　４日	青森県４Ｈクラブ連絡協議会第２回地区連会長会議	ｵﾝﾗｲﾝ(１名)
５月～12 月	第 55 回東北農村青年会議青森大会実行委員会（延べ５回)	延べ７名
11 月 28 日	五所川原地区及びつがる地区合同農産物即売会及び情報交換会	即売会１名 情報交換会５名
11 月 29 日	令和７年度つがる農業活性化フォーラム	４名
２月 12 日 ～13 日	令和７年度青森県青年農業者会議（東北町)	ｵﾝﾗｲﾝ(１名) 現地１名
４月～１月	機関誌「な and わ」作成（４回)	延べ 27 名



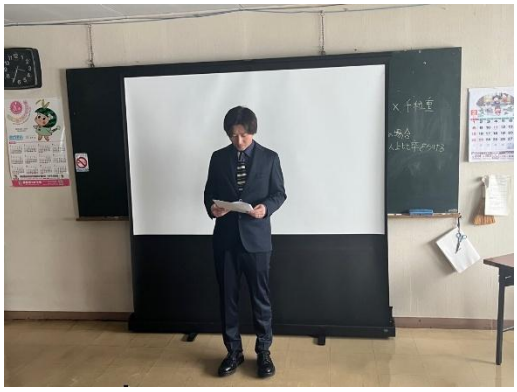
機関誌「な and わ」作成（4/16）



農産物即売会（11/28）



青年農業者会議意見発表（2/12）



青年農業者会議意見発表（2/12）

５　若手女性組織

ＫＯＳ（きづくりオリジナルスター）〔会長：山谷 綾子〕

ア　会員構成

６名（五所川原市２名、つがる市３名、鶴田町１名）

※旧木造地区４ＨＣの活動が前身となっている

イ　活動目的

同世代の仲間の輪を広げるとともに、身近な課題に目を向け、先輩農業者への訪問や研修会の開催などで身につけた知識や技術を、農業や暮らしに生かす。

ウ　活動状況

開催日	内容	参加名数
６月 21 日	顔合わせ会（五所川原合同庁舎） ・今年度の活動計画の策定	７名
６月 24 日	おじゃまします交流会（田舎館村） ・観光農園や直売施設の視察	６名
７月　７日	おじゃまします交流会（つがる市） ・会員の野菜栽培訪問 講師：村上智映さん	５名
７月 11 日 10 月 10 日	うまいもん市出店 ・農産物や加工品等の販売 ・活動ＰＲ	11 名
12 月　６日	ヨガ講座 ・講師：成田久美子さん	７名
１月 30 日	新年交流会（つがる市　タノナカノヤドッコ） ・会員の情報交換	８名



おじゃまします交流会（6/24）



うまいもの市出店（7/11）

６　西北津軽産直ネットワーク協議会

（１）会員構成

組織・団体名	代表者	所在地	備考
ＪＡごしょつがる女性部やさいＳＵＮプラザ (やさいＳＵＮプラザ元気じるし農産物直売所)	小笠原ふじ江	五所川原市	
三好村づくり協議会	小野　慶子	五所川原市	会計
ＪＡつがるにしきた鶴翔農産物直売コーナー友の会(鶴の里あるじゃ農産物販売コーナー)	鈴木　照子	鶴田町	
板柳町農産物直売アンテナショップ 「とれたて市」運営協議会 (板柳町ふるさとセンター「とれたて市」)	米澤　康春	板柳町	会長
中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会 (中泊町特産物直売所「ピュア」)	田中恵津子	中泊町	理事
うちがた工房	小山内恒仁	中泊町	
つがる市農産物直売所友の会 (つがる市農産物直売所)	村上　靖徳	つがる市	
（株）つがる女性加工	竹内きよゑ	つがる市	
「あじ・彩・感」倶楽部 (海の駅わんど農産物直売所「あじ・彩・感」)	木村　清二	鰺ヶ沢町	副会長
道の駅もりた「おらほのめへ」 （令和７年 12 月 31 日組織解散により脱退）	木村　茂子	つがる市	監事

（１）活動状況

ア　会議

開催日	内容	参加名数
３月 25 日	令和７年度通常総会	９名
５月 12 日	第１回役員会	６名
２月 13 日	第２回役員会	４名

イ　研修

開催日	内容	参加名数
３月 25 日	研修会 講話「株式会社産直とわだの取組について」 講師　株式会社産直とわだ　事務局主任　太田美幸氏 情報交換 話題提供①先進事例研修報告「盛岡市産直施設視察」 話題提供者　会長 米澤康晴氏 ②中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会 「令和６年度農林水産祭内閣総理大臣賞受賞」の概要 話題提供者　「ピュア」店長　前田晴香氏	６組織 (11 名)

５月～ ８年１月	出張販売交流会　６組織がイベントにて販売促進活動 （内訳）5/4　株式会社つがる女性加工 「マエダストア虹ヶ丘店」試食販売会 6/29「あじ・彩・感」倶楽部 「あじがさわｄｅ夏マルシェ」出店 7/6　とれたて市運営協議会 「五所川原ホコ天」りんご直売 7/6　三好村づくり協議会 「五所川原ホコ天」加工品販売 12/24 JA ごしょつがる女性部やさい SUN プラザ 「歳末感謝祭」 1/17　うちがた工房 「うちがた工房新年会」	６組織
８月８日 ～ 10 月 16 日	レシートラリー 産直７組織で開催　応募総数 296 件 賞品　協議会賞（西北地域産品詰め合わせ） とれたて市賞（リンゴジュース３本セット） ピュア賞（ピュア５００円賞品券） 「あじ・彩・感」倶楽部賞(あじっぴーキーホルダー) 三好村づくり協議会賞（塩こうじ・三好みそ）	10 組織



産直研修会



販売交流会（やさい SUN ﾌﾟﾗｻﾞ）



レシートラリー



レシートラリー抽選会

7　津軽米づくりネットワーク

（1）会員構成

市町名	名数	役員	
五所川原市	18 名	【会　　長】	吉田郁世
つがる市	25 名	【副 会 長】	境谷一智、工藤康記
鰺ヶ沢町	１名	【事務局長】	斎藤祐規
板柳町	３名	【理　　事】	濱田浩平、三潟洋生、秋田谷和智
鶴田町	１名		工藤正也、野呂淳悦、成田麻美、梶浦拓朗
中泊町	３名	【監　　事】	小野修身、野呂修聖
弘前市	１名	【会　　計】	加藤潤哉
藤崎町	１名	【相 談 役】	山内勝、木村農也
計	53 名		

（2）活動状況

ア　研修会等

開催期日	内　　容	参加名数
６月 27 日	令和７年度もみ殻のストックヤードに係る報告会出席 ・もみ殻に係る県の取組内容（畜産課） ・もみ殻の広域流通に向けたストックヤード利用実証の結果について（あおもり創生パートナーズ株式会社）（青森県立図書館　４階　集会室）	２名
７月 17 日	第１回研修会の開催 ・ザルビオヘルシーフィールド実施ほ場視察（４か所） （五所川原市、つがる市現地ほ場）	23 名
８月 17 日 ～20 日	第２回研修会の開催 ・土づくりに係る先進地視察 （北海道沼田町上村農場、富良野市藤野農場、江別市ヤンマーアグリジャパン北海道支社、長沼町雪印種苗長沼研究所）	６名
９月４日	県農林水産部長との意見交換 （県庁北棟５階農林水産部長室）	４名
10 月	あおもりの旨い米グランプリへの出品	15 名
11 月 20 日	第３回研修会の開催 ・鶏糞堆肥の活用に係る意見交換 （五合庁１階Ｃ会議室：県畜産課）	16 名

11 月 26 日	令和７年度つがる農業活性化フォーラムの参加 ・真正カメムシ類 多様な食性と生息環境（弘前大学農学生命科学部） ・つがる市での鳥獣による被害状況について（つがる市農林水産課） ・西北地域の鳥獣被害状況と対策について（西北農林水産事務所）	10 名
12 月 18 日	年末情報交換会の開催 ・関連業者からの情報提供 （ホテルサンルート五所川原：株式会社ミツハシ、日本農産工業株式会社、雪印種苗株式会社、トヨタ L&F 青森株式会社）	34 名
1 月 13 日	西北地域米づくり新時代フォーラムの参加 ・斑点米カメムシの情勢について（国立研究法名農研機構） ・ＧＮＳＳガイダンス自動操舵システムについて（株式会社ニコン・トリンブル、株式会社トプコンソキアポジショニングジャパン） ・高密度播種苗栽培技術について（西北農林水産事務所） ・水稲直播栽培技術について（西北農林水産事務所） ・水稲初冬播き栽培技術について（青森県産業技術センター農林総合研究所）	13 名
1 月 14 日	第４回研修会の開催 ・鶏糞堆肥の有効活用に係る意見交換 ・ザルビオヘルシーフィールドについて （五合庁１階Ｃ会議室：県庁畜産課、BASF ジャパン株式会社）	16 名
1 月 26 日 ～28 日	第５回研修会の開催 ・米卸売事業者等との意見交換会 （協同組合日本飼料工業会、株式会社ミツハシ、日本農産工業株式会社） ・農林水産省との意見交換	10 名

イ 県外企業の農業参入

開催期日	内　　容	参加名数
7月 30 日	県外企業の農業参入説明会への参加 （五合庁１階Ｃ会議室：県庁構造政策課）	８名
８月 27 日	県外企業の農業参入説明会への参加 （五所川原市民学習情報センター 大教室：県庁構造政策課）	11 名
９月３日	本県農業への参入に向けた株式会社コロワイドMDの産地訪問出席 （五所川原市中央公民館２階会議室、五所川原市現地ほ場：株式会社コロワイドMD、県庁構造政策課）	10 名
10 月 16 日	本県農業への参入に向けた株式会社コロワイドMDの産地訪問出席 （五合庁１階Ｃ会議室：株式会社コロワイドMD、県庁構造政策課）	８名
11 月 20 日	県外企業の農業参入説明会への参加 （五合庁１階Ｃ会議室：県庁構造政策課）	16 名
12 月 18 日	年末情報交換会の開催 ・県外企業の農業参入説明会 （ホテルサンルート五所川原：株式会社コロワイドMD、県庁構造政策課）	34 名
１月 21 日	本県農業への参入等に向けた株式会社コロワイドMDとの意見交換会の参加 （五所川原市中央公民館２階会議室（オンライン）：株式会社コロワイドMD、県庁構造政策課）	25 名
１月 27 日	県外企業の農業参入に係る打合せ参加 （株式会社コロワイドMD本社：県庁構造政策課）	３名
２月 24 日	県外企業の農業参入に係る意見交換会の開催 （五合庁１階Ｃ会議室：県庁構造政策課、株式会社コロワイドMD（オンライン））	18 名

ウ　総会、役員会

開催日	内容	参加名数
４月　９日	第１回役員会	10 名
６月 18 日	第２回役員会	８名
７月 30 日	第３回役員会	８名
11 月 20 日	第４回役員会	16 名
２月　４日	第５回役員会	９名
３月　９日	第６回役員会	11 名
３月 13 日	第 13 回通常総会	37 名



ザルビオヘルシーフィールド実施ほ場視察（7/17）



北海道沼田町上村農場視察（8/19）



株式会社コロワイド MD 産地訪問（9/3）



県農林水産部長との意見交換（9/4）



鶏糞堆肥の有効活用に係る意見交換（1/14）



首都圏視察研修（1 月 26～28 日）

Ⅴ　気象経過と農作物の生育状況

１　気象経過

（１）気象概要

月	概　　要
４月	低気圧や前線等の影響で、曇りや雨の日が多く、県内全域で日照時間がかなり少なかった。降水量は、平年より多いまたはかなり多かった。平均気温について、上旬・中旬は平年よりも高い傾向であったが、下旬では平年並みだった。
5 月	期間を通して高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、下旬では前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多かった。平均気温は上旬・中旬では平年並みまたは高い傾向であったが、下旬は平年よりも低かった。降水量は、津軽では平年並みまたは少なかった。日照時間は期間を通して概ね平年並みであった。
6 月	暖かい空気が流れ込み、県内全地点で月平均気温の高い方から１位を更新し、記録的な高温となった。東北北部の梅雨入りは平年より１日早い６月 14 日で、降水量は上旬・中旬は平年より少ないまたは平年並みであったが、下旬は津軽では平年よりかなり多いまたは多かった。それにともない、日照時間は上旬から中旬にかけて多い傾向だったが、下旬は平年並みまたは少なかった。
7 月	月初めは気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かったが、それ以降は高気圧に覆われ晴れの日が多かった。平均気温は平年よりかなり高く、県内全地点で７月の月平均気温が過去最高記録となった。降水量について、津軽では期間を通して平年より少ないまたはかなり少ない傾向であったが、上旬にはかなり多い所もあった。梅雨明けは 19 日頃とみられている。日照時間は、平年より多かった。
8 月	高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日となった日もあった。20 日に低気圧からのびる前線が、津軽海峡付近に停滞し、大雨になった所もあった。平均気温は平年より高い傾向で、日照時間は津軽では平年よりも多かった。
9 月	高気圧に覆われ晴れの日が多く、平均気温は平年よりかなり高かったが、低気圧や前線の影響で、曇りや雨の日もあり、月初めには大気が不安定な状態となった。降水量は津軽では平年よりも多い傾向で、上旬ではかなり多い所もあった。日照時間は期間を通して平年よりも多いまたはかなり多い傾向だった。
10 月	上旬から中旬にかけて高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、下旬は気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多かった。21 日には平年より２日遅れて八甲田山で初冠雪を観測し、23 日には平年より２日遅れて岩木山で初冠雪を観測した。平均気温は上旬から中旬にかけて平年より高かったが、下旬には平年よりもかなり低くなった。津軽では降水量がかなり少ないまたは少なかった。日照時間について、津軽は上旬は平年よりも多いまたはかなり多かったが、中旬以降は平年より少ない傾向だった。
11 月	低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、一時的に西高東低の冬型の気圧配置となり雪が降った日もあった。青森では 11 日に平年より３日遅れて初雪を観測し、津軽の積雪量は平年並みまたは多い所があり、最深積雪は、平年並みまたは多かった。日照時間は、津軽上旬から中旬にかけて平年並み、下旬は平年より多いまたはかなり多かった。

12 月	低気圧や前線の通過で冬型の気圧配置となり、雪や雨の日が多かったが、津軽では期間を通して降雪量が平年並みまたは少ない傾向だった。平均気温は、平年よりも高く、降水量は平年より多いまたはかなり多かった。最深積雪は、平年より少ないまたはかなり少なかった。日照時間は、津軽では期間を通して平年並みまたは少ない傾向だった。

２　水　稲

【本年産の特徴】

◎　水稲の生育に影響を及ぼした気象現象として、
①田植え直後は低温だったが、以降収穫まで平年より気温が高く推移した。
②７月は降水量が少なく、幼穂形成期から出穂期までに用水を確保できなかったほ場が見られた。

◎　管内生育観測ほの「まっしぐら」の 10ａ当たり収量は、平年よりやや少なかった。

◎　県全体の 10ａ当たり収量は 596kg、作況単収指数は 101、津軽地帯の 10ａ当たり収量は 599kg、作況単収指数は 98 であった。市町別の 10ａ当たり収量は、五所川原市 621kg、つがる市 625kg、鰺ヶ沢町 576kg、深浦町 535kg、板柳町 585kg、鶴田町 583kg、中泊町 588kg であった（東北農政局公表、12 月 12 日、生産者が使用している目幅）。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>作業等
進捗状況</td><td>例年より雪解けが遅かったことから、は種最盛期は平年より２日遅く、田植最盛期も平年より２日遅かった。
田植え後、高温で推移したため生育は早まり、出穂最盛期は平年より６日早かった。
出穂後も高温で推移したことから登熟が進み、刈取最盛期は平年より７日早かった。
西北地域の作業等進捗状況
<table>
<tr><th>項目</th><th>は種</th><th>田植</th><th>出穂</th><th>刈取</th></tr>
<tr><td>始</td><td>4/6</td><td>5/15</td><td>7/24</td><td>9/16</td></tr>
<tr><td>最盛
（平年差）</td><td>4/14
（2 日遅）</td><td>5/21
（2 日遅）</td><td>7/28
（6 日早）</td><td>9/24
（7 日早）</td></tr>
<tr><td>終</td><td>4/22</td><td>5/30</td><td>7/31</td><td>10/5</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>県生育
観測ほの
生育状況</td><td>◎田植え～出穂期
５月中旬までは高温で推移したが、５月第５半旬から６月第１半旬は低温で推移したことから、田植えが遅れたほ場では初期生育の遅れが見られた。またその後の生育期間は高温で推移したことから、ガス湧きの影響で茎数の増えが鈍化したほ場が見られた。その後順調に生育し、幼穂形成期は７月５日（平年比２日早）、出穂期は７月 24 日（平年比６日早）であった。

◎登熟期～成熟期
成熟期の生育は稈長は平年よりやや長く、穂長は平年よりやや長く、㎡当たり穂数は平年よりかなり少なく、㎡当たり籾数は平年よりかなり少なかった。成熟期は９月５日（平年比９日早）であった。</td></tr>
</table>

◎収量・品質

10ａ当たり玄米重は平年よりやや少なかった。検査等級は２地点で１等、２地点で２等に格付けされた。玄米タンパク質含有率は平年より 0.5 ポイント高かった。

県生育観測ほ調査結果（成熟期）

（単位：cm、本、粒、％）

	年次	稈長	穂長	株当穂数	㎡当穂数	１穂籾数	㎡当籾数×100	登熟歩合
まっしぐら	本年	79.9	19.4	19.3	360	86.4	307	89.8
	平年	78.6	18.5	20.2	398	85.9	342	81.8
	平年差・比	102	105	96	90	101	90	+8.0

県生育観測ほ調査結果（収量）

（単位：kg/10a、g、％）

	年次	全重	玄米重	屑米重	玄米千粒重	玄米ﾀﾝﾊﾟｸ質含有率
まっしぐら	本年	1,726	632	31	22.4	6.7
	平年	1,676	663	34	23.0	6.2
	平年差・比	103	95	93	97	+0.5

五所川原市太刀打、中泊町宮川、つがる市福原、車力、鰺ヶ沢町日照田の４地点平均（つがる市福原は薬害のため除外）

管内の産米検査状況

主要３品種（まっしぐら・青天の霹靂・はれわたり）の１等米比率は 95.0％(前年 97.1％)であった。

病害虫発生状況

育苗期間全体を通して高温傾向で推移したため、苗立枯病（ピシウム）の発生量は少なかった。また、ばか苗病に効果のある種子消毒剤へ変更が進んだことから、発生は前年より減少した。

イネドロオイムシ、イネミズゾウムシの発生量は平年並みであった。

いもち病は、葉いもちの発生量は平年並み、穂いもちの発生量は少なかった。

紋枯病の発生量はやや多く、一部で上位まで進展がみられた。

斑点米カメムシ類は、全般に高温小雨であったため発生に好適で、予察灯による誘殺数は平年より多く推移し、一部で被害がみられた。

３　大豆

【本年産の特徴】

◎　は種作業は、５月中旬から始まり、６月第２半旬に最盛期となった。適度な降雨があり、出芽の揃いは良好であった。
◎　期間を通して高温で経過したことから、生育は概ね順調であった。一部のほ場では、７月の少雨の影響による生育不良や、８月上～中旬の豪雨による葉の黄化や株の枯れ上がりが見られた。
◎　刈取りは、平年よりやや早い、10 月第５半旬から始まった。その後、定期的に降雨があったことから、刈取最盛期は平年より１～３日遅かった。

項目	概要
は種～出芽期	は種作業は、５月中旬から始まり、６月第２半旬に最盛期となった。適度な降雨があり、出芽の揃いは良好であった。
生育期～開花期	期間を通して高温で経過したことから、生育は概ね良好であった。一部ほ場では、７月の少雨の影響による生育のばらつきや下葉の枯れ症状、また、８月上～中旬の豪雨の影響による葉の黄化や株の枯れ上がりが見られた。 開花期は７月第４～第６半旬で、平年に比べ５～10 日程度早かった。
成熟期	登熟期間においても気温が高めに経過したことから、登熟は順調に進んだ。県生育観測ほの成熟期は 10 月 10 日で、平年に比べ５日程度早かった。
収穫作業	刈取りは、平年よりやや早い、10 月第５半旬から始まった。その後、定期的に降雨があったことから、合間を縫っての刈取りとなり、最盛期は平年より１～３日遅かった。 収量は概ね平年並みで、品質については、しわ粒の発生が多かった。県生育観測ほの坪刈りの子実重は 39.8kg/a であった。
病害虫の発生状況	一部ほ場では、べと病、マメシンクイガ、カメムシ類の発生があった。 管内の大豆刈取進捗状況

市町名	刈取始	最盛期	刈取終
五所川原市	10/29(2 日遅)	11/8(2 日遅)	11/22(3 日遅)
つがる市	10/25(並)	11/7(3 日遅)	11/22(並)
鰺ケ沢町	10/24(並)	11/6(2 日遅)	11/16(5 日早)
中泊町	10/25(1 日早)	11/6(1 日遅)	11/20(1 日遅)

注）刈取始は刈取面積割合が５％、最盛期は 50%、刈取終は 95%に達した月日を記載。（　）は平年差を記載。

県生育観測ほ（つがる市木造）調査結果

（cm、本/本、kg/a、g、莢/本）

年次	9/10 草丈	分枝数	全重	子実重	百粒重	稔実莢数
本年	105.8	3.4	76.0	39.8	36.1	54.5
前年	89.1	2.3	62.2	31.9	30.0	34.4
平年	90.1	2.9	61.2	34.4	37.9	33.2

注） 令和６年から調査ほ場が変更になったため、平年欄には令和５年まで同調査を行っていた五所川原市金木嘉瀬ほ場の調査結果を参考値として記載(平成 26 年～令和５年の平均値)。

４　小麦

【本年産の特徴】

◎　は種作業は、９月中旬から始まり、10 月始めにはほぼ終了した。出芽は良好で、越冬前の生育量は十分確保された。
◎　冬期の積雪量が多かったことから、一部ほ場では雪腐病の発生が見られた。
◎　４月の降水量が多く、日照時間が短かったことから、草丈、茎数は平年並みから下回って推移した。

項目	概要
越冬前	は種作業は、９月中旬から始まり、10 月始めにはほぼ終了した。は種時期の気温が平年よりも高めに経過し、湿害も見られなかったため、出芽は全般に良好で、越冬前の生育量は十分確保された。
越冬後	消雪は平年より 20 日程度遅い３月 20 日過ぎであった。積雪量が多かったことから、一部ほ場では雪腐病の発生が見られた。
幼穂形成期～出穂期	県生育観測ほの幼穂形成期は、ネバリゴシは平年より２日遅く、キタカミコムギは平年より６日遅くなった。４月は降水量が多く、日照時間が短かったことから、草丈、茎数は平年並みから下回って推移した。また、出穂期は平年並みであった。
登熟期	６月の気温が平年より高く、日照時間も長かったことから登熟は順調に進んだ。
収穫期	刈取作業は７月第１半旬から始まり、最盛期は７月 10 日頃で、７月第４半旬には概ね終了した。 収量は、ほ場によるばらつきが大きく、茎数が少なかったほ場では穂数が確保されず減少した。

県生育観測ほ（つがる市木造）における幼穂形成期・出穂期

品種名	幼穂形成期		出　穂　期	
	本年	平年差	本年	平年差
ネバリゴシ	3/25	２日遅	5/18	並
キタカミコムギ	4/1	６日遅	5/20	並

平年値　ネバリゴシ：平成 14 年～令和６年（令和４年は欠測のため除外）
キタカミコムギ：平成８年～令和６年

県生育観測ほにおける成熟期の生育調査及び収量調査

（単位：月日、cm、本/㎡、kg/a）

品種名	成熟期	稈長	穂長	穂数	子実重
ネバリゴシ	6/30	76.5	7.2	421	20.9
平年	7/4	81.6	7.8	505	42.9
キタカミコムギ	7/4	109.0	9.5	526	42.4
平年	7/8	95.0	8.7	408	45.3

（令和８年産）
越冬前

は種作業は、９月中旬から始まり、10月始めにはほぼ終了した。は種時期の気温が平年より高く経過したことから、出芽及び生育は全般に良好であった。

５　野菜

【本年産の特徴】

◎　昨年の大雪、４月の曇雨天の影響でほ場が乾かず、定植準備に遅れが出たり、定植後の寒暖差や乾燥で初期生育に遅れが出たほか、夏季高温の影響で品質低下、収量減など多くの品目に影響が見られた。
◎　土壌病害やアザミウマ類、タバコガ、ヨトウムシ類、カメムシ類の発生が散見された。

項目等	概要
＜トマト＞	
定植期	早植え（４月下旬～５月上旬定植）の作型の生育は、おおむね例年並の４月 20 日頃から始まった。４月は曇雨天が多かった影響で、定植作業に遅れが見られたほ場が散見された。４月下旬～５月上旬定植の苗は、日照不足の影響で軟弱徒長気味であった。
生育初期	定植後は寒暖差があり、乾燥傾向だったことで初期生育に遅れが出たが、６月に入ってからは高温・多日照で生育は回復し、早植え作型では、１段果房の収穫及び農協選果場の稼働が例年並の６月 20 日頃から始まった。一部ほ場では葉先枯れや尻腐果が散見されたほか、病害虫では、トマトキバガの初発が確認された。
生育中期～生育後期	７月は異常高温、高夜温、少雨の影響で落花、裂果、軟果、尻腐果が多く見られた。 ８月は高温、まとまった降雨の影響で、裂果や軟果が急増したほか、一部ほ場では浸水し、すすかび病等が急増した。病害虫は、７～８月を通して、青枯病、すすかび病、オオタバコガ、アザミウマ類、トマトキバガが散見された。 ９月に入ってからは、裂果や軟果が落ち着いたものの、グリーンバック果、灰色かび病、すすかび病が増加した。また、トマトキバガによる葉や果実への食害が急増した。
収量・品質	夏季高温の影響で裂果や軟果の多発や、青枯病やトマトキバガ等の病害虫の発生により、単収は 5.4ｔと前年（6.5ｔ）を下回った。Ａ品率も 21%で前年（30%）を下回った。
病害虫	病害は、６月以降に青枯病の発生が増加したほか、８～９月にかけて、すすかび病が散見された。害虫は、７～９月にかけてアザミウマ類、オオタバコガ、トマトキバガの被害が散見された。 トマトキバガについては、前年に発生が確認され冬期間ビニールを

除覆していないハウスでは、定植後の５月に初発が確認されたほか、９～10 月にかけて発生のピークを迎え、稲刈作業との競合で防除が緩やかになったほ場では、葉や果実への食害が急増した。

＜メロン＞

定植期　トンネル栽培（４月下旬定植）の定植は、４月に降雨が続き、畑の準備作業が遅れたことから、例年より 10 日程度遅い４月 20 日頃から始まり、５月上旬にかけて盛んに行われた

生育初期　トンネル栽培は、地温が上がらなかったことから初期生育が緩慢となったが、６月に入って気温が上がり生育は順調となった。

開花・着果期　トンネル栽培の交配作業は、５月下旬頃から６月上旬にかけてホルモン処理やミツバチにより行われた。

肥大期　６月から７月にかけて降水量が少なかったことから、マルチ内のかん水チューブでかん水するなど肥大促進に努めた。

高温対策として、トンネルに白い塗布剤を散布し日陰を作っている農業者が多かった。

収量・品質　トンネル栽培の出荷は、例年よりも１週間遅い７月 17 日頃から始まったが、その後は高温により熟期が早まり、予定よりも早い収穫となった。

つがるメロン協議会（ＪＡごしょつがるとＪＡつがるにしきた）の出荷量は 147,436 ケース（１ケース８kg）で、目標 15 万ケースの 98.3%となった。

生育観測ほ（つがる市木造）のデータは、平均１果重が 1,867g で平年比 117%と大きかったが、１株当たり着果数が 3.0 個と少なく、単収は平年比 106%となった。

県生育観測ほ調査結果

（単位：cm、枚、節、果/株、kg/10a）

年次	定植	6/10		7/10		着果	収穫	収量
		つる長	葉数	葉数	着果数			
本年	5/3	142.7	19.8	16.4	3.0	6/17	7/28	3,887
平年	5/3	165.8	21.9	13.4	3.5	6/13	7/28	3,682
前年	4/27	192.6	23.2	14.9	3.2	6/14	7/30	3,182

場所：つがる市木造、品種：タカミ(台木 ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾞｰﾄﾞﾊﾟﾜｰ)　平年値：H27～R6

病害虫　つる割病や炭腐病の発生に加え、新たに「黒点根腐病」の発生を確認したことから、対策として輪作や緑肥作物の必要性を指導した。

＜すいか＞

定植期　４月は降雨が続き、耕起やマルチ張りの作業が遅れ、例年であれば４月中に行われる定植が全般に遅れた。

生育初期	地温が上がらない状態で定植を行ったほ場が多く見られ、活着が遅れるととともに初期生育が緩慢となった。
肥大期	６月から７月の肥大期にかけて雨が少なく影響が心配されたが、肥大は比較的良好であった。
収量・品質	出荷は、前年より４日程度遅い７月７日頃から始まった。 高温や強日射による日焼け果や過熟果の発生と作付面積の減少により、全体の出荷収量と販売額は前年の約８割と少なかった。（ＪＡつがるにしきた白神やさい・果実部会すいか班）
病害虫	オオタバコガの発生が平年よりも多く、表面の一部が茶色に変色する被害果が例年よりも多く見られた。
＜ねぎ＞ 生育	４月の降雨続きで畑の準備が遅れ、定植が大幅に遅れたほ場が多くみられた。定植後は降雨が少なくほ場が乾燥し、特に７月は１か月近く高温干ばつが続いたことから生育が停滞した。８月上～中旬にかけての大雨による湿害で生育停滞や葉先枯れがみられた。９月下旬以降は生育は回復傾向となった。
収量・品質	収穫は例年より 10 日程度遅い７月下旬から始まり、12 月まで続いた。高温、干ばつ、湿害の影響で、肥大不足のものが多くＬＭ中心となった。９月下旬以降は生育は回復したものの、収量は例年を下回った。
病害虫	軟腐病や黒斑病、葉枯病、ネギアザミウマ、シロイチモジヨトウの食害等の発生が多く見られた。
＜にんにく＞ 生育	植付後は概ね順調であったが、大雪により消雪が例年より１週間から 10 日遅れたことや４月の日照不足と降雨続きにより、りん片分化期は例年より４日遅れの４月 21 日（つがる市車力・無マルチ）となった。 越冬後の草丈、葉数は例年を下回っていたが、６月に入り生育は例年並みに回復した。 肥大時期に降水量が少なかったため、小玉傾向となった。
収量・品質	収穫は例年より２日遅い６月 19 日頃から始まり、６月 22～24 日頃がピークとなった。肥大はやや小さめで、収量は例年をやや下回った。
病害虫	４月は降雨や曇天続きであったことから、全般的に春腐病の発生が多かった。さび病は少発生で、虫害はアザミウマ被害が散見された。
＜ながいも＞ 生育	植付作業は、５月中旬から始まり６月末まで行われ、最盛期は例年並みの５月下旬頃となった。

	萌芽始めは、車力調査ほ場（６月５日植付け）で、前年並みの６月 23 日（18 日目）だった。７月は１か月近く高温干ばつが続いたため、スプリンクラーによるかん水が例年より頻繁に行われた。８月以降は降雨が多い時期があったが、つるの生育は概ね順調であった。
収量・品質	収穫は例年並の 11 月 10 日頃から始まった。いもの形状は、生育期間中の高温・乾燥の影響により細くて長めの傾向だった。また乾燥によるくびれや大雨の影響による尻部の褐変がみられ、収量は例年を下回った。
病害虫	一部炭疽病が多発したほ場がみられた。また、葉渋病、コガネムシやナガイモコガによる食害が散見された。
<ブロッコリー>	
生育	春穫り栽培は、４月に降雨が続いたため、定植が 10 日以上遅れたほ場が多くみられ、生育は停滞気味に推移した。５月中旬以降、高温で生育が回復傾向となったが、高温少雨により虫害の多発や６月下旬の高温多雨による軟腐病の発生、生育不揃いがみられた。 秋穫り栽培は、定植時期の７月下旬は高温干ばつ、８月上～中旬は大雨で、定植遅れや乾燥による萎れ、湿害による生育不良や生育の停滞がみられた。９月から 10 月中旬にかけては天候に恵まれ、生育は回復した。
収量・品質	春穫り栽培の収穫は概ね例年並みの６月上旬から始まったが、コナガの多発による虫害や軟腐病の多発により、収量は例年を下回った。 秋穫り栽培の収穫は例年並みの９月上旬から始まった。今年の秋穫りから高温に強い品種に変更したことから、品質の良いものが出荷された。
病害虫	春穫り栽培はコナガと軟腐病が多発した。秋穫り栽培では、一部従来品種のおはようでは黒すす病が散見された。またヨトウムシ類の発生が見られた。

６　りんご

【本年産の特徴】

◎　昨年度の積雪量は平年よりも多かったが、３月から４月にかけての平均気温が平年よりもやや高かったことから、「ふじ」の発芽日は平年並から平年よりやや早かった。その後の気温も平年よりやや高く経過したため、「ふじ」の開花日は平年よりやや早かった。

◎　果実肥大は、開花が平年よりやや早かったことから、初期肥大は平年よりやや大きかった。その後、７月まで降水量が少なく乾燥した影響により肥大は鈍化した。８月以降の降雨により肥大はやや回復したが、収穫期には平年並から平年を下回る園地が多く、小玉傾向となった。

◎　病害は、昨年に続き腐らん病の発生がやや多かった。また、モニリア病の被害葉や褐斑病による黄変落葉が一部園地で見られたほか、炭疽病の被害が一部地域で多かった。

◎　虫害は、カメムシ類による被害が多かった。シンクイムシ類やナシマルカイガラムシによる被害果、ハダニ類の発生が一部園地で多かった。また、その他の虫害としてヨトウガ、キリガ類、コガネムシ類による被害葉が目立った。

◎　昨年度の豪雪により、ふじの樹冠下部（下枝）を中心にカラマツが目立った。また鳥害が例年より多かった。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>生育ステージ</td><td>積雪量が平年よりも多かったが、３月から４月にかけての平均気温が平年よりもやや高かったことから、県生育観測ほの「ふじ」の発芽日は平年より１日早い４月７日であった。その後の気温も平年よりやや高く経過したことから、展葉日は平年より２日早い４月 16 日、開花日は平年より３日早い５月５日だった。開花日期間は、豪雪の影響により樹冠の上部と下部とで開花日がずれたため、平年より２日長い 12 日間であった。

県生育観測ほ（板柳町五幾形）における生育ステージ
<table>
<tr><th>品種</th><th>年</th><th>発芽日</th><th>展葉日</th><th>開花日</th><th>満開日</th><th>落花日</th><th>収穫始</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ふじ</td><td>本年</td><td>4/7</td><td>4/16</td><td>5/5</td><td>5/12</td><td>5/17</td><td>11/9</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>4/8</td><td>4/18</td><td>5/8</td><td>5/13</td><td>5/18</td><td>11/12</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>4/4</td><td>4/12</td><td>4/28</td><td>5/3</td><td>5/9</td><td>11/10</td></tr>
<tr><td>平年差</td><td>１日早</td><td>２日早</td><td>３日早</td><td>１日早</td><td>１日早</td><td>３日早</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>果実肥大</td><td>生育ステージが平年よりやや早かったことから、初期肥大は平年よりもやや大きかった。その後は７月まで降水量が少なく、乾燥した影響により肥大が鈍化した。８月以降の降雨により収穫期には平年並となった。</td></tr>
</table>

県生育観測ほ（板柳町五幾形）における生育ステージ

（単位：cm、%）

品種	年次	6/1	7/1	8/1	9/1	10/1	11/1
ふじ	本年	1.6	4.2	6.2	7.9	8.6	8.9
	平年	1.5	4.0	6.1	7.7	8.5	8.9
	前年	2.3	5.0	7.3	8.7	9.3	9.6
	平年差	107	105	102	103	101	100

病害虫等

○病害

主要病害では、昨年に続き腐らん病の発生が多く、収穫期まで枝の被害が目立った。また、４月の降水量が多かったため、５月頃にモニリア病の被害葉が一部園地で見られた。オンリーワンフロアブルを使用しなかった園地で９月頃から褐斑病が発生し、黄変落葉が発生していた。さらに、９月頃から炭疽病の被害果が散見され、10 月に入ってからは一部園地で「王林」等で炭疽病による落果が多く見られた。

○害虫

主要害虫では、カメムシ類による被害が多かった。６月くらいから被害果が見え始め、収穫期まで見られた。調査時は見られなかったがシンクイムシ類による被害果が多いと生産者から声があった。一部園地ではナシマルカイガラムシによる被害果（がくあ部周辺）が見られ、ハダニ類が多発生であった。

その他害虫では、ヨトウガ、キリガ類及びコガネムシ類による被害葉が目立った。

災害等

豪雪の影響により、ふじの樹冠下部（下枝）を中心にカラマツが目立った。また、鳥害が例年より多かった。

7　ぶどう（スチューベン）

【本年産の特徴】

◎ ４月以降の気温がおおむね平年よりも高かったことで、発芽日から落花日まで平年より早まった。
◎　生育観測ほでの「スチューベン」の収穫は、平年より 11 日早い９月 15 日から始まり、収穫終わりは平年より 29 日早い９月 28 日であった。
◎　７月から８月にかけてコガネムシ類による葉の食害が目立った。また、黒とう病の被害が散見された。
◎　収穫期（９月）以降、管理粗放園等周辺の園地で晩腐病の発生が目立った。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>生育ステージ</td><td>
昨年度の積雪量が平年よりも多かったため、生育観測ほの催芽日は平年より２日遅い４月 17 日であった。４月以降の気温がおおむね平年よりも高かったことから、発芽日は平年より３日早い４月 27 日、展葉日は平年より２日早い５月７日、開花日は平年より１日早い６月 15 日であった。
生育観測ほでの収穫は平年より 11 日早い９月 15 日から始まり、収穫終わりは、平年より 29 日早い９月 28 日であった。

県生育観測ほ（鶴田町境）における生育ステージ
<table>
<tr><th>年次</th><th>催芽日</th><th>発芽日</th><th>展葉日</th><th>開花始</th><th>開花日</th><th>満開日</th><th>落花日</th></tr>
<tr><td>本年</td><td>4/17</td><td>4/27</td><td>5/7</td><td>6/15</td><td>6/17</td><td>6/19</td><td>6/27</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>4/15</td><td>4/30</td><td>5/9</td><td>6/16</td><td>6/19</td><td>6/21</td><td>7/1</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>4/11</td><td>4/23</td><td>5/2</td><td>6/8</td><td>6/12</td><td>6/15</td><td>6/27</td></tr>
<tr><td>平年差</td><td>２日遅</td><td>３日早</td><td>２日早</td><td>１日早</td><td>２日早</td><td>２日早</td><td>４日早</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>年次</th><th>着色始</th><th>着色日</th><th>収穫始</th><th>収穫終</th></tr>
<tr><td>本年</td><td>8/12</td><td>8/19</td><td>9/15</td><td>9/28</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>8/19</td><td>8/27</td><td>9/26</td><td>10/27</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>8/9</td><td>8/18</td><td>9/19</td><td>10/8</td></tr>
<tr><td>平年差</td><td>７日早</td><td>８日早</td><td>11 日早</td><td>29 日早</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>病害虫等</td><td>
６月下旬までは主要な病害虫の発生は全般的に少なめだった。
７月から８月にかけてコガネムシ類による葉の食害が目立った。また、黒とう病の被害が散見された。
収穫期（９月）以降、管理粗放園等周辺の園地で晩腐病の発生が目立った。
</td></tr>
</table>

８　花き

【本年産の特徴】

◎　夏場の記録的な高温により、開花期のずれが発生した。
◎　高温による品質低下が見られた。
◎　病害は少なかったが、虫害はヤガ類、スリップス類などが見られた。

<table>
<tr><th>項目</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>＜キク＞
生育状況</td><td>夏秋ギク及び秋ギクの生育は順調であったが、収穫は夏期の高温により開花遅れと品質低下が見られ、出荷量も前年より少なかった。
県生育観測ほ調査結果(夏秋ギク、４月定植８月出荷(電照栽培))
（単位：月日、本/ａ、cm、ｇ）
<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">定植期</th><th rowspan="2">栽植
本数</th><th colspan="2">草丈</th><th rowspan="2">収穫
最盛期</th><th rowspan="2">切花長</th><th rowspan="2">切花重</th></tr>
<tr><th>6/10</th><th>7/10</th></tr>
<tr><td>本年</td><td>4/20</td><td>4,400</td><td>51.2</td><td>111.4</td><td>8/15</td><td>125.4</td><td>134.5</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>4/17</td><td>4,400</td><td>56.8</td><td>109.8</td><td>8/4</td><td>115.1</td><td>86.0</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>4/25</td><td>4,400</td><td>57.4</td><td>103.4</td><td>8/6</td><td>109.1</td><td>99.4</td></tr>
</table>
場所：五所川原市川山、品種：岩の白扇
県生育観測ほ調査結果(秋ギク、７月定植 10 月出荷(無電照栽培))
（単位：月日、本/ａ、cm、ｇ）
<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">定植期</th><th rowspan="2">栽植
本数</th><th colspan="2">草丈</th><th rowspan="2">収穫
最盛期</th><th rowspan="2">切花長</th><th rowspan="2">切花重</th></tr>
<tr><th>8/10</th><th>9/10</th></tr>
<tr><td>本年</td><td>7/10</td><td>4,200</td><td>36.0</td><td>88.8</td><td>10/28</td><td>114.2</td><td>102.6</td></tr>
<tr><td>平年</td><td>7/6</td><td>4,018</td><td>37.7</td><td>93.9</td><td>10/22</td><td>114.4</td><td>105.0</td></tr>
<tr><td>前年</td><td>7/9</td><td>4,065</td><td>32.3</td><td>92.4</td><td>10/23</td><td>110.7</td><td>88.1</td></tr>
</table>
場所：五所川原市川山、品種：神馬</td></tr>
<tr><td>病害虫</td><td>全般的にアザミウマ類が発生したほか、オオタバコガは、８月、９月に平年より多く発生し食害が見られた。</td></tr>
<tr><td>＜トルコギキョウ＞
生育状況</td><td>越冬栽培は６、７月の高温で例年より１週間程度早い出荷となり、春まき栽培は記録的な高温の影響により例年よりかなり出荷が早まった。また、８月の豪雨により浸水するほ場が見られた。
品質についても、開花期が前進したことで、短茎開花したほ場が見られ、出荷本数は前年を下回った。</td></tr>
<tr><td>病害虫</td><td>アザミウマ類やヤガ類による虫害が散見された。
病害はほとんど見られなかった。</td></tr>
</table>

Ⅵ　表彰・認定

１　表彰事業受賞者

（１）あおもりの旨い米グランプリ

<table>
<tr><th>表　　彰</th><th>受　賞</th><th>受　賞　者</th><th>市　町</th></tr>
<tr><td>令和７年産あおもりの旨い米グランプリ</td><td>「青天の霹靂」の部グランプリ</td><td>柳原　真</td><td>五所川原市</td></tr>
<tr><td colspan="2">＜内容＞
　五所川原市 柳原真氏が「青天の霹靂」の部でグランプリを受賞しました。
　柳原氏は稲わらのすき込みとケイ酸質資材散布による土づくり、ガス湧き対策としての中干し前の短期落水など、きめ細やかな栽培管理による良食味・高品質米生産を心がけています。

（受賞年月日　令和７年 12 月 11 日）</td><td colspan="2">
前列右から二人目が柳原真氏</td></tr>
</table>

（２）青森県農業経営研究協会賞

表彰	受賞	受賞者	市町
一般社団法人青森県 農業経営研究協会 第 44 回「青森県農業 経営研究協会賞」	－	有限会社　悠久の郷 代表取締役　宮﨑　悠	五所川原市

＜内容＞

義父の経営する鉢花生産農家に就農し、シクラメンを主体とした鉢花生産に取り組み、数年で経営基盤を構築、肥培管理の改良による製品化率の向上や、持続可能な取引による利益の確保等、生産から販売まで一貫した改革が、業績として評価された。

【主な業績】

１．鉢花生産における栽培から販売・マーケティングまでの仕組みを自ら確立

２．経費管理の徹底により安定した利益を確保し、持続可能な鉢花経営モデルを創出

【改革の内容】

○経営基盤の強化

・シクラメンの品目構成の変更や作型の前進化、新品目の導入

○生産面

・適正な肥培管理により、ほぼ 100％に近い製品化率の実現

・作付計画に基づいた生産管理を徹底し、需要期に高品質の鉢花を出荷

○販売面

・費用計算により下限価格を設定し、再生産可能な取引を実施

・オリジナル商品の開発・販売

（受賞年月日　令和８年３月 12 日）



表彰式

（前列左から２番目が宮﨑悠氏）



出荷風景

（３）農山漁村女性活躍表彰

表彰	受賞	受賞者	市町
令和７年度 農山漁村女性活躍表彰 女性新規事業 チャレンジ部門	優秀賞 （農林水産省 経営局長賞）	株式会社 SATO FARM 代表取締役 佐藤　恵美	鰺ヶ沢町

＜内容＞

女性活躍推進のために積極的に活動している個人又は団体を表彰し、女性が農山漁村でいきいきと活躍できる環境づくりの推進や農林水産業の発展に寄与することを目的に開催されている。

佐藤氏は、令和２年に知人のりんご園を継承する形で就農し、令和５年には夫の大豆経営と統合して法人化、りんご部門を担当している。

フレックスタイム制や草刈りロボットの導入など働く環境を整備することで、子育て世代の雇用を確保し、規模拡大にもつなげた。

また、自作絵本「りんごって？」の読み聞かせや企業とコラボした農業体験、メッセージ動画付きの「ＱＲりんご」といった創造力あふれる商品を通して、鰺ヶ沢町のりんごをＰＲするとともに農業の楽しさを発信している。

（受賞年月日　令和８年３月３日）



佐藤恵美氏



「りんごって？」の読み聞かせの様子

２　新規認定者

（１）農業経営士・青年農業士認定

西北管内から新たに農業経営士８名、青年農業士６名が認定された。

【農業経営士】



氏　　名　工藤　康記
住　　所　つがる市
主な経営　水稲、畑作、野菜



氏　　名　成田　親哉
住　　所　つがる市
主な経営　水稲



氏　　名　田戸　岡誠
住　　所　つがる市
主な経営　水稲、畑作



氏　　名　神　　文人
住　　所　鰺ヶ沢町
主な経営　りんご、水稲、大豆



氏　　名　工藤　雅夫
住　　所　深浦町
主な経営　施設園芸



氏　　名　會津　大郎
住　　所　板柳町
主な経営　りんご、水稲



氏　　名　秋田　拓伸
住　　所　板柳町
主な経営　りんご、水稲



氏　　名　小野　大海
住　　所　中泊町
主な経営　水稲

【青年農業士】



氏　　名　高橋　佑弥
住　　所　つがる市
主な経営　すいか、メロン、菜苗



氏　　名　工藤　涼平
住　　所　つがる市
主な経営　水稲、野菜



氏　　名　黒滝　尚矢
住　　所　つがる市
主な経営　水稲、野菜、路地野菜



氏　　名　今　敬豊
住　　所　つがる市
主な経営　ミニトマト、スイートコーン



氏　　名　須藤　大地
住　　所　鰺ヶ沢町
主な経営　水稲



氏　　名　工藤　龍輔
住　　所　鶴田町
主な経営　りんご、野菜

（２）ＶｉＣ・ウーマン認定

西北管内から３名のＶｉＣ・ウーマンが認定されました。



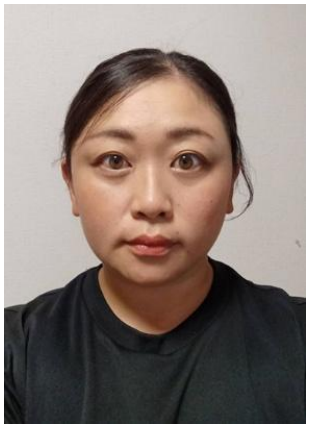
氏　名　佐々木　香織
住　所　五所川原市

【主な所属団体】
ＪＡごしょつがる野菜振興協議会



氏　名　山谷　綾子
住　所　つがる市

【主な所属団体】
ＫＯＳ、つがる市農産物直売所友の会



氏　名　中野　千恵
住　所　鶴田町

【主な所属団体】
ＪＡつがるにしきた鶴翔農産物直売コーナー友の会

Ⅶ　その他の活動
令和７年度青森県所得向上プログラム実践支援事業（県単補助）

（１）趣旨

本県における農業者の所得向上のモデル事例を創出し、そのモデルを地域で共有・横展開することで、農業者全体の所得向上を図る。

（２）事業の概要

農業者等が自ら企画・提案する「所得向上チャレンジプラン」の実現に向けて、その取組に係る経費を補助するほか、普及指導員が経営指導等により伴走支援を行う。

また、事業実施年度（令和７年度）に補助金を交付するほか、目標年度（令和９年度）において、大きな成果を収めた場合、追加で補助金を交付することで、成果により補助率が変わる補助事業である。

（３）事業実施主体

農業者、農業法人、任意組織

（４）補助対象経費

ア　ソフト事業及びハード事業（令和７年度交付）

所得向上チャレンジプランの実施に要する以下の経費対象となる。

区分	補助対象経費	補助金の額
１　ソフト事業	次に掲げる所得向上に向けた新たな取組又は既存の取組の拡充に要する経費 （１）新技術等の導入 （２）新商品の開発 （３）販売促進活動 （４）ＩＣＴの導入 （５）その他知事が必要と認める取組	定額（上限 50 万円）
２　ハード事業	次に掲げる経費 （１）栽培用設備、かん水施設又は加工用設備の導入・改修 （２）農業用機械又は加工用機械の購入 （３）その他知事が必要と認めるもの ただし、対象となる設備、施設又は機械は１件の本体価格が 500 千円以上に限る。	1/2 以内 （上限 500 万円、ただし、任意組織の場合は 1,000 万円とする。）

イ　成果連動型加算（令和９年度交付）

ハード事業費の 1/6（上限 166.6 万円、任意組織は 333.3 万円以内）

（５）事業の採択

西北地域では事業の応募件数が 12 件（補助金額 57,211 千円：うちソフト事業 2,666 千円、ハード事業：54,545 千円）があり、全件採択された。

また、事業への追加応募が１件（補助金額 5,061 千円：うちソフト事業 61 千円、ハード事業 5，000 千円）あり、不採択となった。

Ⅷ　参考資料

１　西北地域農業の概要

（１）地域の広がり

西北地域は青森県の北西部に位置し、県人口第６位の五所川原市、第９位のつがる市、西津軽郡の鰺ヶ沢町と深浦町、北津軽郡の板柳町、鶴田町、中泊町の２市５町から構成される。

（２）地勢

地域の西側は日本海に面する海岸段丘となっており、七里長浜沿いに屏風山砂丘が発達している。そこから東に、岩木山や世界自然遺産の白神山地へ連なる山地、また、広大な津軽平野が展開している。

津軽平野の中央を流れる一級河川岩木川は、左岸のつがる市と西津軽郡、右岸の五所川原市と北津軽郡を分け、約１万 ha の水田を潤している。

（３）気候

夏季は内陸型の気候で高温多湿となり、比較的温暖なものの、北部では「ヤマセ」の影響を受け低温となることがある。

冬季は豪雪で日本海からの強い偏西風の影響を受け、地域によっては雪が舞い上がって吹き荒れる「地吹雪」が発生する。

五所川原市の年平均気温は 10.6℃（前平年値+0.3）、４～９月の暖候期の平均気温は 17.6℃（同+0.4）、年降水量は五所川原市で 1,280㎜（同+56）、深浦町で 1,529 ㎜（同+65）となっている。

月平均気温の平年値（アメダスの統計期間：平成３年～令和２年）

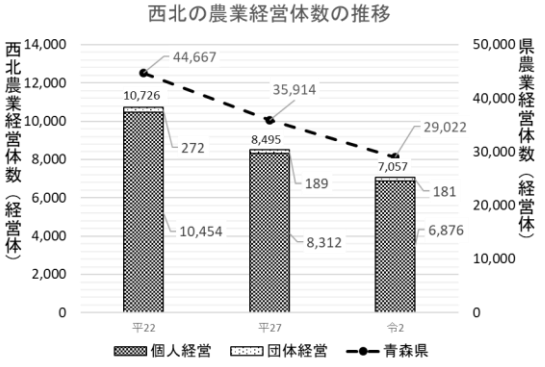
観測地点	寒候期			暖候期						寒候期			暖候期	年
	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月		
五所川原	-1.1	-0.7	2.5	8.5	14.1	18.0	22.0	23.4	19.5	13.1	6.9	1.3	17.6	10.6
市　浦	-0.6	-0.2	2.8	7.8	12.7	16.7	20.9	22.7	19.2	13.2	7.2	1.8	16.7	10.3
鰺ヶ沢	-0.2	0.1	3.0	8.2	13.2	17.1	21.3	22.8	19.3	13.4	7.6	2.1	17.0	10.7
深　浦	0.0	0.3	3.2	8.5	13.5	17.5	21.7	23.2	19.5	13.6	7.9	2.4	17.3	10.9
(参)弘前	-1.5	-1.0	2.3	8.6	14.3	18.3	22.3	23.5	19.4	12.9	6.5	0.8	17.7	10.6

（４）農業経営体

ア　農業経営体数

令和２年の経営体数は 7,057 経営体で、平成 22 年の 10,726 経営体から 34%減少した。

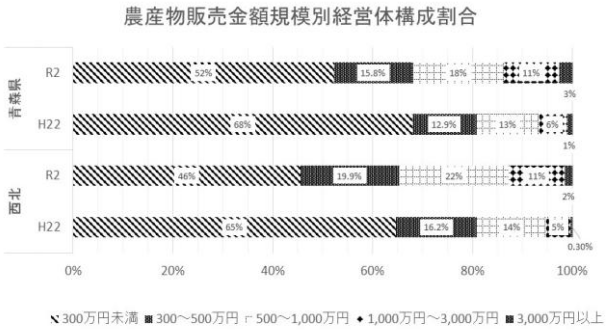
また、団体経営の比率は２％程度と横ばいである。



出典：農林業センサス

イ　販売金額規模別経営体割合

販売規模別では、令和２年は平成 22 年に比べ、500～1,000 万円が約 1.5 倍、1,000～3,000 万円の階層割合が約３倍に増加している。

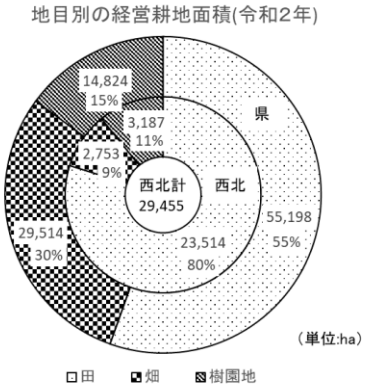


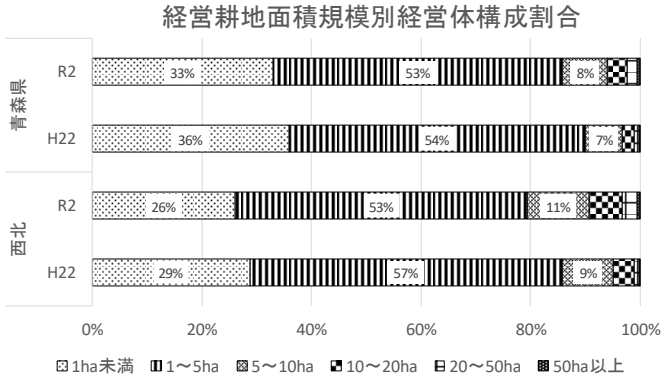
出典：農林業センサス

（５）経営耕地面積

令和２年の西北地域の経営耕地面積は 29,455ha で本県の 30%を占め、地目別では田が 23,514ha(80%)と大半で、次いで樹園地 3,187ha(11%)、畑 2,753ha(9%) となっている。

令和２年の経営耕地面積を規模別で見ると、平成 22 年に比べ、大規模化している。





出典：農林業センサス

（６）農地の集積状況

西北地域における農地の担い手への集積率は、鰺ヶ沢町、深浦町を除くと、県全体に比べて高い。

担い手の農地利用集積面積（令和７年３月末）（単位：ha、%）

市町名	耕地面積	担い手への集積面積	担い手への集積率
五所川原市	9,250	7,150	77.3
つがる市	14,200	12,478	87.9
鰺ヶ沢町	3,230	1,852	57.3
深浦町	1,420	781	55.0
板柳町	3,020	2,108	69.8
鶴田町	2,930	2,407	82.1
中泊町	3,660	3,119	85.2
西北計	37,710	29,895	79.3
県　計	147,300	88,308	60.0

出典：農林水産省「東北管内の担い手への農地集積状況（令和７年３月末現在）」

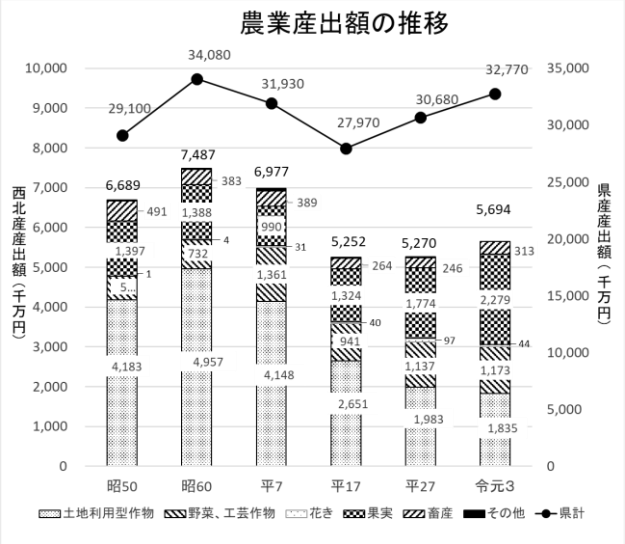
令和７年５月東北農政局取りまとめ及び農林水産省「作物統計調査」「農林水産関係市町村別データ」のうち「耕地面積（2025 年２月 28 日公表）」の値を使用

（７）農業産出額

西北地域における令和３年の農業産出額は 596 億円で県全体の 17%を占める。

作目別の県全体に占める割合は、水稲などの土地利用型作物が 45%、果実が 21%、花きが 25%、野菜・工芸作物が 14%となっている。

西北地域における作目別の割合は、果実が 40%、土地利用型作物が 32%、野菜が 20%となっている。



出典：市町村別農業産出額(推計)(農林水産省)

２　作物別の生産状況

（１）水稲

管内の令和７年産水稲作付面積（子実用）は、18,696ha（前年比 1,107ha 増）で、県全体の約 42%。また、収穫量（子実用）は 11 万４千トンで、県全体の約 43%を占めている。

水稲の作付面積等（令和７年産）

（単位：ha、ｔ）（生産者が使用しているふるい目幅）

市町名	作付面積	収穫量
五所川原市	4,780	29,700
つがる市	8,050	50,300
鰺ヶ沢町	714	4,110
深浦町	332	1,780
板柳町	1,170	6,840
鶴田町	1,290	7,520
中泊町	2,360	13,900
西北計	18,696	114,150
県　計	44,300	264,000



収穫前の風景

出典：「令和７年産水稲の市町村別収穫量」（農林水産省東北農政局 令和７年 12 月 12 日公表）

（２）畑作物

大豆、小麦が転作作物として作付けされており、令和６年産の大豆作付面積は 3,402ha で前年より 25ha 減少し、全県の約６割を占め、小麦は 285ha で 63 ha減少し、全県の約４割を占めている。

大豆・小麦の作付面積等（令和６年産）

（単位：ha）

市町名	大豆	小麦
五所川原市	597	121
つがる市	1,360	109
鰺ヶ沢町	513	55
深浦町	135	－
板柳町	189	－
鶴田町	155	－
中泊町	453	－
西北計	3,402	285
県　計	5,640	747



大豆の収穫作業

出典：作物統計調査「令和６年産市町村別データ」

（麦類令和７年３月 28 日、大豆令和７年５月９日公表）

（３）野菜

つがる市から鰺ヶ沢町にかけての屏風山地域では、メロン、すいか、つがる市北部の屏風山開畑地域では、ねぎ、だいこん、ながいも、にんにく等、西海岸地域では、だいこん、ばれいしょ、にんじん、アスパラガス等、津軽平野北部地域では、夏秋トマト、ブロッコリー等、それぞれ大規模な産地が形成されている。

「夏秋トマト」、「夏ねぎ」、「秋冬ねぎ」、「ばれいしょ」は産地指定されている。

一方、近年、担い手の高齢化に伴って「夏秋トマト」等の作付が減少している。

水田転作での高収益作物として令和８年に指定野菜に追加される「ブロッコリー」の作付が推進されている。

野菜の作付面積（西北地域）　（単位：ha）

トマト	ﾐﾆﾄﾏﾄ	きゅうり	メロン	すいか	ねぎ	ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ
40.0	8.8	3.9	55.7	42.9	47.5	51.4
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ながいも	にんにく	だいこん	にんじん	ごぼう	ばれいしょ
41.9	37.5	87.6	33.7	33.0	34.7	13.1

出典：令和６年産野菜作付面積調査（農産園芸課）

（４）果樹

令和７年のりんごの栽培面積は 約 3,780ha で県全体の 18.9%となっている。

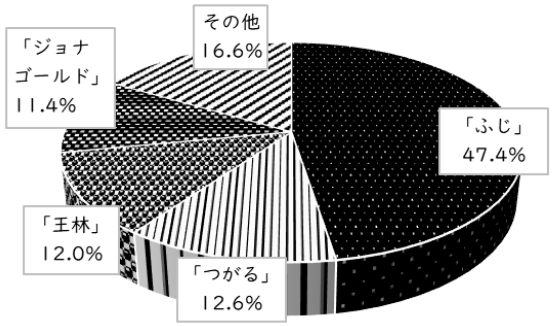
品種構成は、「ふじ」が 47%で最も多く、次いで「つがる」、「王林」、「ジョナゴールド」の順となっている。

ぶどうの栽培面積は約 118ha で、鶴田町を中心に栽培されている。品種構成では「スチューベン」が 92.5%を占めている。また、近年、管内各地で「シャインマスカット」が作付けされている。

りんごの栽培面積（西北地域）　（単位：ha、%）

全体	ふじ	つがる	王林	ｼﾞｮﾅｺﾞｰﾙﾄﾞ	その他		合計
						トキ	
	1,795.0	476.7	452.6	432.1	628.1	66.5	3,784.5
うちわい化	351.1	107.7	71.8	85.1	337.4	30.6	963.0
わい化率	19.6	22.6	15.9	19.7	53.7	46.0	25.2

出典：令和７年りんご栽培面積実態調査結果（属人）※端数処理のため合計は一致しない



西北地域りんご栽培面積構成



五所川原市発祥のりんご黄色品種「トキ」

ぶどうの栽培面積（西北地域）　（単位：ha、%）

品種名	ｽﾁｭｰﾍﾞﾝ	ｼｬｲﾝﾏｽｶｯﾄ	ｷｬﾝﾍﾞﾙｱｰﾘｰ	ﾅｲｱｶﾞﾗ	その他	合計
栽培面積	109.1	4.8	2.0	0.7	1.3	117.9
構成比	92.5	4.1	1.7	0.6	1.1	100

出典：令和５年産特産果樹生産動態等調査結果　※端数処理のため合計は一致しない



主力品種である「スチューベン」



作付けが増えている「シャインマスカット」

（５）花き

管内の花きは、輪ギクをはじめとするキク類とトルコギキョウを中心に、宿根カスミソウ、ハボタン等の品目が生産されている。作付面積がやや減少傾向のため、出荷額は前年より減少し、２億円となった。


電照による輪ギク栽培

品目別では、ごしょつがる農協は輪ギク、つがるにしきた農協はトルコギキョウや宿根カスミソウを中心とした洋花が生産されている。また、葉ボタンは、トルコギキョウ等の後作として栽培され、近年、低コストで省力栽培が可能なシンテッポウユリの栽培が増えている。

花きの作付面積（西北地域）

作付面積	7.41ha
主な作付品目	キク、トルコギキョウ、シクラメン、宿根カスミソウ、デルフィニウム

出典：令和６年農産園芸課調査

（６）水稲・大豆・小麦の採種

ア　課 題 名　　水稲・大豆・小麦種子の安定生産

イ　指導対象　　（農）木造水稲採種組合(水稲)、木造大豆採種組合(大豆)、出来島種子生産組合(小麦、大豆)、木造畑作物種子組合(小麦、大豆)

ウ　ね ら い　　主要農産物である水稲、大豆及び小麦の優良な種子を供給するため、栽培講習会等により良品質種子生産を支援するとともに、生産ほ場及び生産物の検査を行う。

エ　活動結果

（ア）講習会、検査等の開催状況

作物名	栽培講習会	ほ場検査	生産物検査（発芽試験）
水稲	２回	２回	４回
大豆	２回	４回	５回
小麦	２回	３回	４回



小麦のほ場検査（糊熟期）

（イ）検査結果

＜原種＞　　（単位：ha、kg、％）

作物	品種	ほ場検査				生産物検査			
		設置面積	適合面積	適合率	不適合理由	検査数量	適合数量	適合率	不適合理由
水稲	まっしぐら	1.23	1.23	100	－	5,540	5,540	100	－
大豆	おおすず	6.77	6.77	100	－	14,070	14,070	100	－
小麦	ネバリゴシ	1.41	1.41	100	－	3,930	3,930	100	－
	キタカミコムギ	1.15	1.15	100	－	5,310	5,310	100	－
	計	2.56	2.56	－	－	9,240	9,240	－	－

＜一般種子＞　　（単位：ha、kg、％）

作物	品種	ほ場検査				生産物検査			
		設置面積	適合面積	適合率	不適合理由	検査数量	適合数量	適合率	不適合理由
水稲	まっしぐら	99.38	99.38	100	－	578,540	578,540	100	－
	あかりもち	3.87	3.87	100	－	19,000	19,000	100	－
	計	103.25	103.25	－	－	597,540	597,540	－	－
大豆	おおすず	60.97	56.68	93.0	青立等	78,510	76,920	98	－
小麦	ネバリゴシ	12.47	11.75	94.2	生育不良	37,140	37,140	100	－
	キタカミコムギ	11.45	9.25	80.8	ふ枯れ病等	25,440	25,440	100	－
	計	23.92	21.00	－	－	62,580	62,580	－	－

３　西北地域農林業主要指標

単位：ha,％

区分			単位	年次	西北	県	西北割合	資料
農林業経営体			経営体	R2	7,071	29,139	24.3	センサス
	農業経営体		経営体	R2	7,057	29,022	24.3	センサス
		個人経営体	経営体	R2	6,876	28,232	24.4	センサス
		主副業別 主業経営体	経営体	R2	3,132	11,604	27.0	センサス
		主副業別 準主業経営体	経営体	R2	765	3,313	23.1	センサス
		主副業別 副業的経営体	経営体	R2	2,979	13,315	22.4	センサス
		団体経営体	経営体	R2	181	790	22.9	センサス
		法人経営体	経営体	R2	53	117	45.3	センサス
	林業経営体		経営体	R2	14	117	12.0	センサス
基幹的農業従事者			人	R2	11,957	48,083	24.9	センサス
	平均年齢		歳	R2	64.7	65.4	98.9	センサス
雇用者数（実人数）			人	R2	17,153	69,012	24.9	センサス
認定農業者数			経営体	R6	3,195	9,029	35.4	県構造政策課
新規就農者数			人	R6	36	310	11.6	県構造政策課
耕地面積			ha	R6	37,773	147,300	25.6	農林水産統計
	田		ha	R6	27,843	77,500	35.9	農林水産統計
	畑		ha	R6	9,930	69,800	14.2	農林水産統計
水稲	面積		ha	R6	17,589	42,400	41.5	農林水産統計
	収穫量		ha	R6	114,520	264,200	43.3	農林水産統計
りんご	面積		ha	R6	4,977	23,020	21.6	県りんご果樹課
野菜	面積		ha	R6	570	7,939	7.2	県農産園芸課
農業産出額			億円	R5	558	2,294	24.3	農林水産統計
	主要作物	米	億円	R5	226	511	44.2	農林水産統計
		野菜	億円	R5	103	687	15.0	農林水産統計
		果実	億円	R5	229	1,096	20.9	農林水産統計